

ツ主人様の
凶悪大人ち○ぽ♡

メスガキハント
洗脳された美柑ちゃんが
お兄ちゃんの前で
大人ち○ぽに壊されるお話

お兄ちゃん
の
役立たず
チ○ぽ(笑)

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

Presented
by 530



「ふう…最近暑いなあ。
スーパーで涼みながら
買い物してたら
つい遅くなっちゃった」

「早く帰って
お夕飯作らなきゃー
リトも待ってるだらうじ」



「君、ちよつと
いいかね」

「えっ？
は……は……？」

「ほほ、やはり思った通りだ
遠目からでもすぐに二級品
だとわかつたよ……♡
この辺りはレベルが高いが
その中でも最上級だ♡」



「こんな暑い日に
おつかいとは偉いねえ♡
性格もイイ……これは
逸材の予感がするぞ……♡」

「は……？」
ええっと……どちら様ですか？
私、急いで帰らなまきや
いけないんですけど……」

「まあそう慌てるな、
データを見てから決めるから♡
最近のガキは純粹に見えて
何をしておるかわからんからな…
本当に體の玩具として
相応しいかどうか……」

「……お、あつたあつた♡
ふむ…美柑と言うのか。
美味しそうなイイ名前だ♡」

「え…!?
なんで私の名前…!?」

ス。



「どれどれ…おお、素晴らしい!
身体も熟れかけのちょうど良い頃♡
交友関係も広く良好…家族にも
大切にされて育ってきたようだ♡
交際経験は当然なし♡
気に入った——」

「お前を體の性玩具にしてやろう♡」

「何を言ってる…
お、大声出しますよ!」

「しかしこの…
リトとかいう男に対する
愛情値だけ異様に高いな?
実の兄妹だろ?
兄に対する愛情の範疇を
かなり超えてるぞ(笑)」

ス。



「な……!?」
(なに、この人……!?
どうして私やリトのこと…
機械で何かを見てる…!?
なんだか分からないけど、
絶対おかしい…っ!!
110番……いや、
すぐに逃げなきゃ——)

「……お、體への嫌悪感が
みるみる上がっていく(笑)
よしよし、不審者を
ちゃんと警戒できて偉いぞ!」

「じゃあとりあえず
儂への愛情値を
MAXにするか♡」

カッ

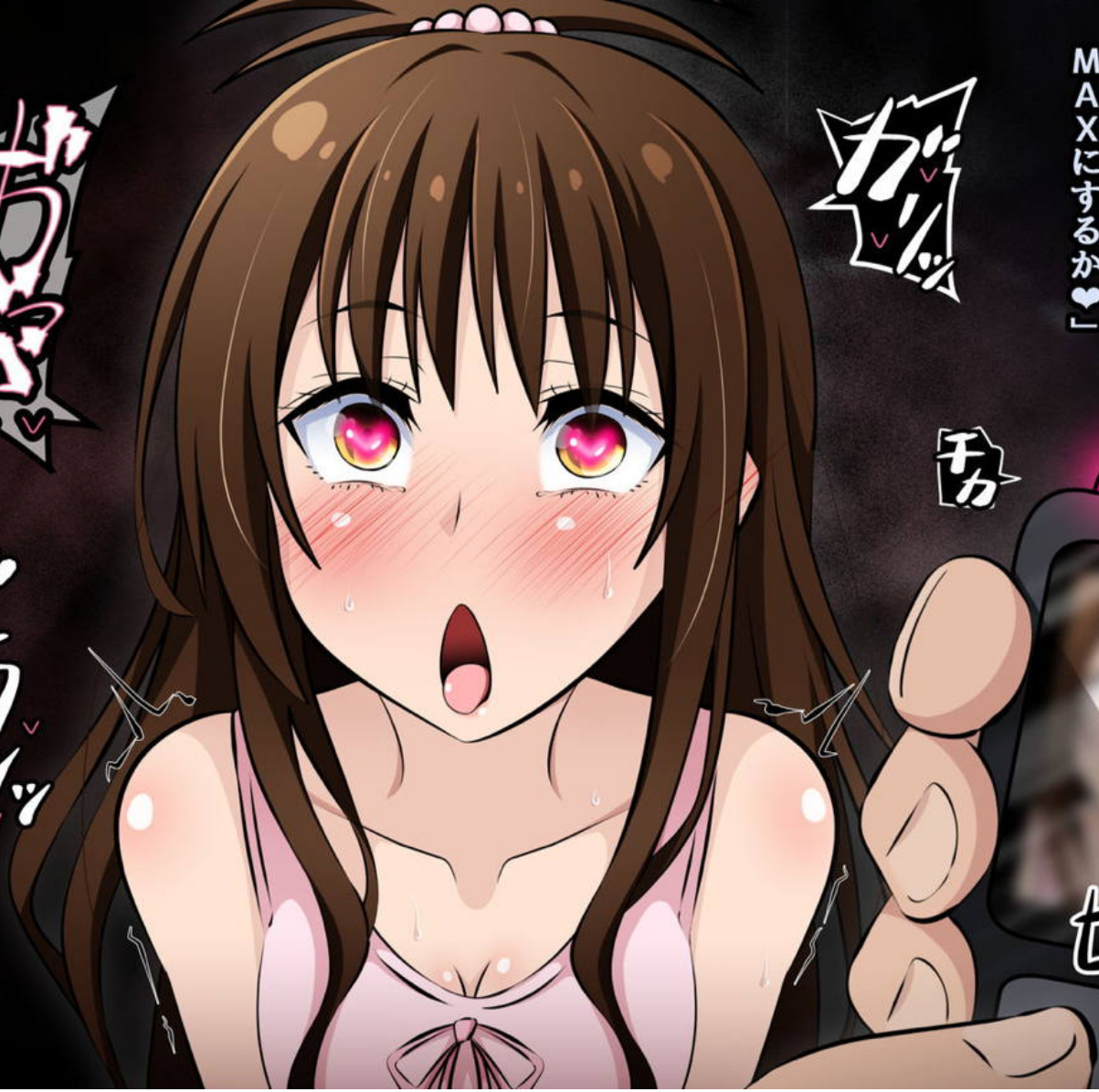
チカ

セツ

おは

ポン

チカ



「ははは、一瞬で顔が蕩けたな♡
まあ当たり前か、大好きなりト君の
倍以上好きな男が前にいるんだ♡
さつきまであんなに嫌悪感を
示してたのにな〜(笑)」

「あ…え…♡♡♡」

ドドド
ドドド



「ははは、一瞬で顔が蕩けたな♡
まあ当たり前か、大好きなりト君の
倍以上好きな男が前にいるんだ♡
さつきまであんなに嫌悪感を
示してたのにな」(笑)」

「あ…え…♡♡♡」

「あとは…そうだな
感度と…」

(え？え？
はたして？)

ががが

あ

ドドド

ゼクッ

「體への服従心…
それにマゾ體質♡」

あ
あ

ゼクッ

チキチキ

ががが

あ

「排卵は…おお、偉いぞ
もう始まつてるじゃないか♡
ご褒美に體の前でしか
排卵できないように
してやろう♡」

(あ

ががが

あ
あ
あ



せせせ

「よおし、ひとまずこれでOK♡
現実にはありえない
メスマゾ」の奴隷の完成だ♡」

はぁあぁあ

「ひっひっひ、凄いだろ？
単なる催眠術じゃないぞ。
ナノマシンがお前の脳みそを
直接書き換えてるんだ♡
どこかの研究機関の技術を
盗んだらしいが…なにせよ
便利な時代になったものだ♡」

カ
ル

カ
ル

「昔のように時間がかかる暗示や
薬物で調教するまでもなく、
ワンタッチでお前の人格を
自由に変えられるんだぞ♡
儂のような上流階級にのみ許された特権だ♡

どうだ？

知らない間に仕込まれた装置に
数秒で儂の性玩具として
生まれ変わらされた気分は♡」

「あ…♡あ…♡」

ナノマシン洗脳装置

ナノマシン技術を悪用して開発された、人間の脳を書き換えてしまう洗脳装置。ナノマシンは予防接種などの際、知らないうちに体内に入られている。特定の地域ではほぼ全ての住民が対象。

一部の人間は莫大な金と引き換えに操作端末が購入することが可能で、ナノマシンを操作することで脳から読み取った情報を表示したり、精神的、身体的に改造したりできる。



「すみませんでしたあ、おじさま——いえ、ご主人様あ私っいたらあんな失礼な態度を…死んでお詫びしますっ♡♡♡」

「ぶほほほっ♡♡♡
いやいや、使う前に死んでどうする(笑)
せつかくのJ〇穴がもつたいたいないだろ♡
心配しなくてもそのうち嫌でも壊れるから安心しろ♡」

ほあ

びくびく

ほあ

「それに勝手に決めたら駄目だぞ？お前は體の所有物なんだからな♡」

「あ♡あ♡そうでした♡美柑の命はご主人様のモノでしたあ♡」

「どうか消耗品としてご主人様の欲望を満たすため存分にお使い潰してくださいっ♡」

「よろし、いらい」♡だ♡♡」

ずいっ
キョウハ



「ではさつそく…
と言いたいところだが、
さすがに道の真ん中ではな(笑)
通りがかかる全員を操作するのも、
叫び声で集まられても面倒だ。

よし、もつと人気のない
ところに行くぞ、美柑♡」

「はいっ♡
ご主人様♡」

はぁ

バクバク



はぁ

「ひっひひ♡
こんなに可愛い…だけじゃなく
しっかりしていて将来有望な賢いコが♡
確実に犯されると分かっているながら
儂のような知らない中年男性に悦んで
ついて行くマゾメスに早変わり!!!♡♡♡

キョウ♡
キョウ♡
キョウ♡

これが町でする狩りの醍醐味よな♡
暑い日にわざわざ出歩いたかいがあった(笑)
これだからメスガキハント
はやめられん♡」

メスガキハント

～洗脳された美柑ちゃんがお兄ちゃんの前で大人ち○ぽに壊されるお話～

Chapter.1 : いきなり洗脳♥→即ガチレイプ♥



「…よし、この辺りだな♥
周りも空き家が多くて
野外レイプに最適らしい♥
隠れレイプスポットだな(笑)」

まったく…この辺りは
ホテルもないのか？
これだから庶民どもの住宅街は…
美柑が可哀想じゃないか(笑)」

「ほれ美柑♥
さつき教えた通りに
おねだり
準備しなさい♥」



レイプマップ機能

人通りが少ない、空き家が多いなど
色んな周辺情報をもとに、
近くの野外レイプに適した場所を
表示してくれる地図機能。
洗脳対象の家や連れ込めるホテルが
近くにないとき、人目を避けて野外で
犯したいときなどに便利。
あえて目立たせたいときに使える
露出マップ機能もある。

「はあい
ご主人様♡」

ぬ♡

お♡

ト♡

ギ♡



「この度はあ…美柑の…
ハンドしていただきで
ありがとうございます♡」

「ご主人様の性玩具に
していただいた感謝を
込めて…♡」

私の処女と人生を
捧げますのでえ♡

「ふほほ♡」

リン♡

ト♡

フ♡

「ぜひ最期まで♡
遠慮なくお召し上がり
くださあ♡♡♡」



ななで♡
ななで♡

キゅん♡
キゅん♡

ト♡
ト♡

せわっ

「お前のように
出来のいいメスガキから
輝かしい未来を奪うのは
たまらんからなあ♡
その辺りをきちんと理解
できとる♡
ますます気に入ったぞ
美柑♡」

「んっ♡」

「よしよし偉いぞ♡
んっ小ぶりでイイ尻だ♡

一度で完璧に覚え
アドリブまで入れて
くるとは…
美柑は賢いな♡」

せわっ

「あらがとっ
「じゃごまかして♡」
「しかしなあ…」

「随分と可愛らしい
穴っぽこだな♥」

ふんふん♥

ばあ♥

ぬ♥

ち♥

ち♥

せろ♥

あ♥

「ほれ、目いつぱい
広げても儂の指二本分
しかないじやないか♥
いちちよ前にヒクつかせ
とるが(笑)」

せろ♥

ふん♥

「あっ♥あっ♥あっ♥」



「これで本当に
啜え込めるか？」

「すみません
ご主人さ」



「僕のちのぼを♡」

ちのぼ♡♡♡

ぼろん

ちのぼ

ちのぼ

ちのぼ

ちのぼ

セキキキ

ガキガキ

セキセキ
セキセキ

ガル

はー♡♡

ハタハタ

「当たり前だ、儂をそこらのガキと一緒にするな♡
というか見たことあるのか(笑)」

「こんな凶悪なの私みたいな○○○に捻じ込もうなんて♡」

「え…え？すごいご主人様のち○ぽすごいっ♡♡♡
リトのとは大きさも形も全然違うっ♡♡♡」

ガル

「はは、潮まで吹くとはほんとど犬だな♡
マゾ度MAXはやり過ぎたか(笑)」

はー♡♡

「私絶対死んじやうじゃん♡♡♡
ご主人様、私のコト本気で壊すつもりなんだ♡♡♡
ステキ…っ♡♡♡♡♡」

ギギギ

ギギギ

セセセ

「ひっひっひっ♡
悦んで貰えて何よりだ♡
まあ安心しろ、そう簡単に
死にはしない♡多分(笑)
ガキとはいえ
まおし
女はち○ぽを受け入れる
ようにできてるからな♡」

はー♡♡

おル必死に頑張りなさい♡

「はいつ♡
命がけて頑張りますっ♡
大人の本気レイプで美柑を
容赦なくぶち○して
くださいっ♡♡♡」

はー♡♡

ハタ

ハタ

「よろし、覚悟は
できたようだな♡
じゃあさっそく…
……あ、一応遺言でも
撮っておくか?(笑)」

「言っておくが手加減はせんぞ?
もう家には帰れないつもりで

「なんだ、目のつばい
腰を上げてこの高さか?」

「は…はいっ♡」

申し訳ありません

ご主人様♡

これでも精いっぱい
つま先立ちしてるん
ですけど…っ♡」

「まったく、主人に腰の
高さを合わせるとは…
ガキはこれだから♡
いちいち嗜虐心を
煽ってきおって…♡」

又々

ドキ

カ

カ

ゼーン



「なんだ、目いっぱい腰を上げてこの高さか?」

「は…はいっ♡」

申し訳ありません

ご主人様♡

これでも精いっぱいつま先立ちしてるんですけど…っ♡」

「まったく、主人に腰の高さを合わせるとは…ガキはこれだからいちいち嗜虐心を煽ってきおって…♡」

又干

ドキキ

カハ

カハ

セー

「まあいい、それじゃあ始めるか♡このぴったり閉じた狭っこい穴にち○ぽ捻じ込むぞ♡」

お前の腕くらいあるからな、気をしっかり持てよ♡」

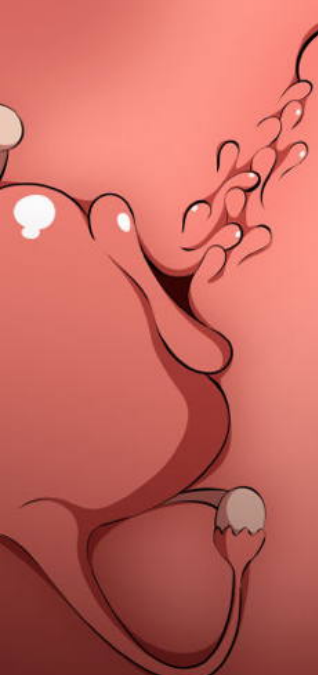
「はっ♡♡」

「いい返事だ♡」

ちゃんと遺言も取つたし
思い残すことはないな(笑)

よおし…っ♡♡」

びっぴりっ♡



「おほほ、この抵抗感♡
さすがにキツイいな…♡
まずはゆる〜つくり
味わうか♡
このびったり閉じ切った
膣内を強引に押し広げて
いく感触を…っ♡♡」

あはは♡

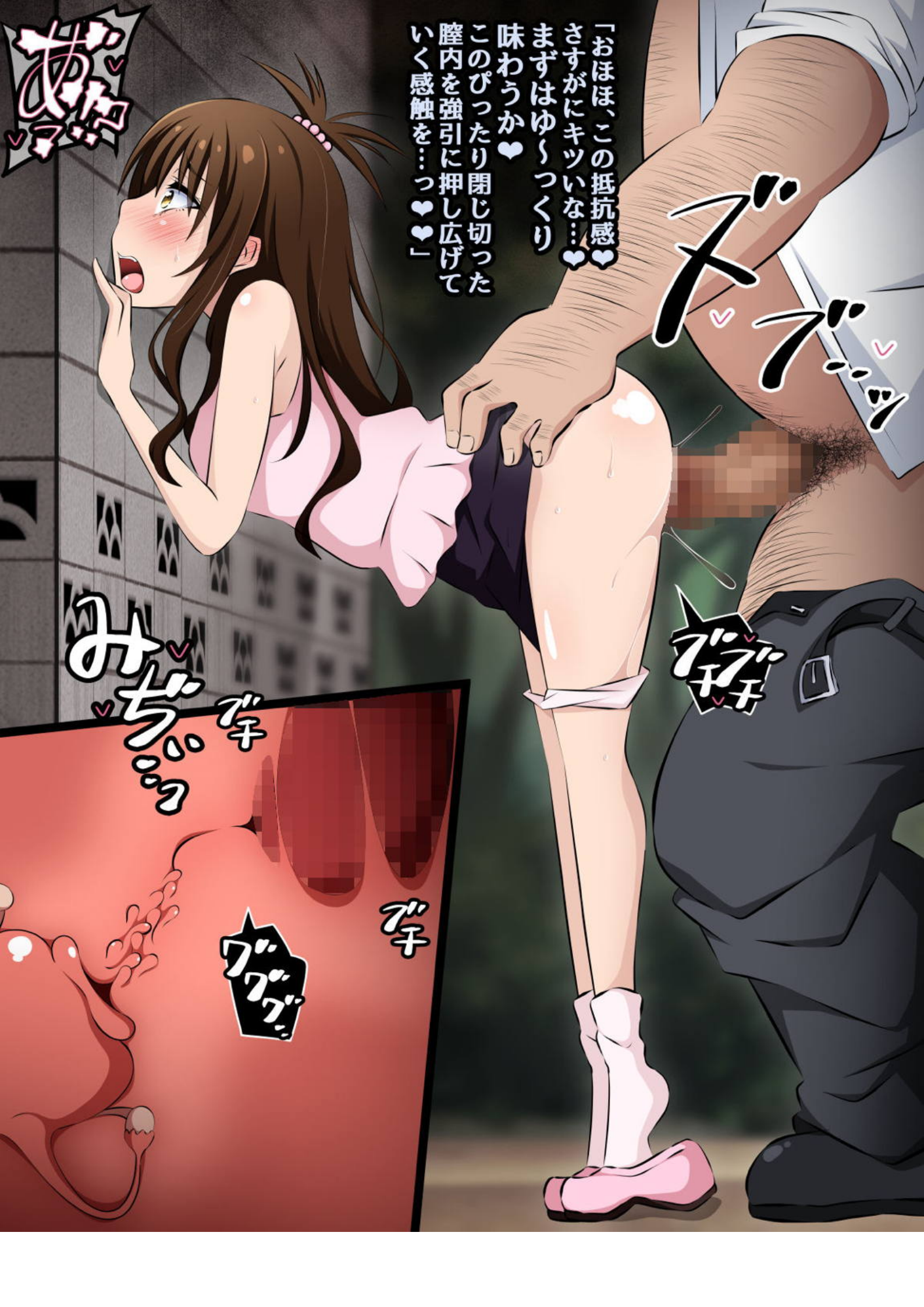
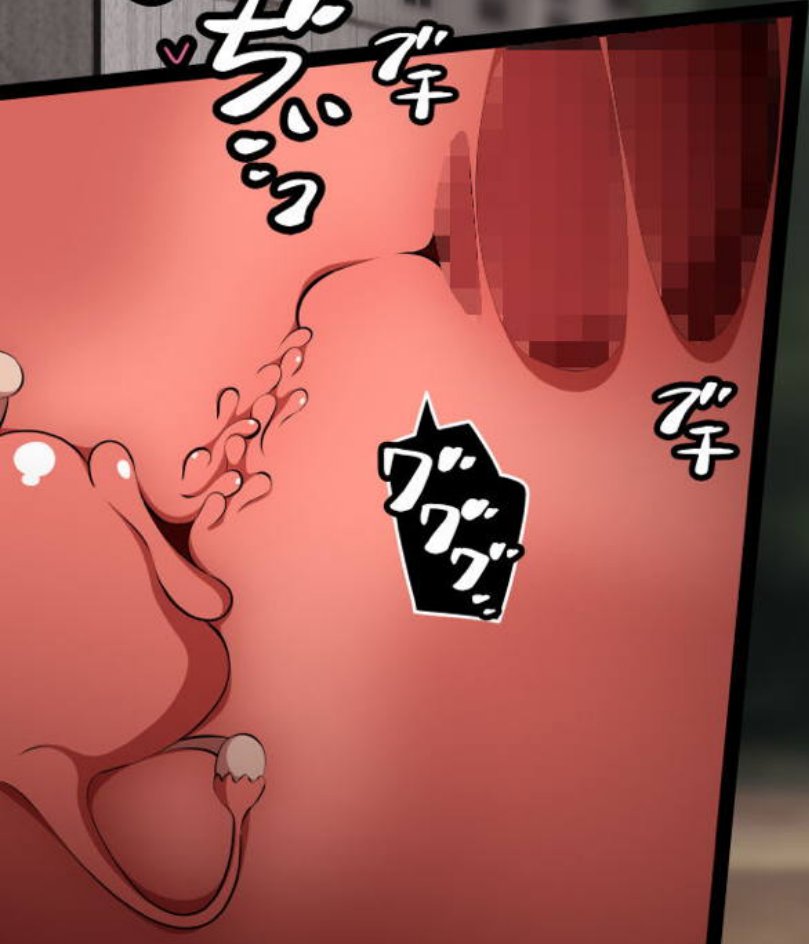
ズ
ズ

み
ぢ
ぢ

ズ
ズ

ズ

ズ
ズ



「おーおー、ぎゅーぎゅーに締めつけおつて♡♡♡さすが初モノ」♡♡♡

ギ
ー
ギ

ち
っ
っ

「もう行き止まりか？
ずいぶん底の浅い窟だなあ
まだ半分も入ってないぞ♡」

「ふうーっ♡♡♡
ふうーっ♡♡♡」

が
っ

が
っ

が
っ

は
ん

か
か
子

「どんな規格外ち○ぽ
でも根元まで啜え込む
のが女の義務だ♡
オナホ
わかってるな？」



「ぶち抜くっ♡♡」

ズキッ

ト

お

キ

キ

ホキッ



「ひっひいひひっ♡
やはりメスガキを
ち○ぽで串刺しにする
瞬間は堪らんあゝ♡」

ゼクッ

メスガキ

ゼクッ

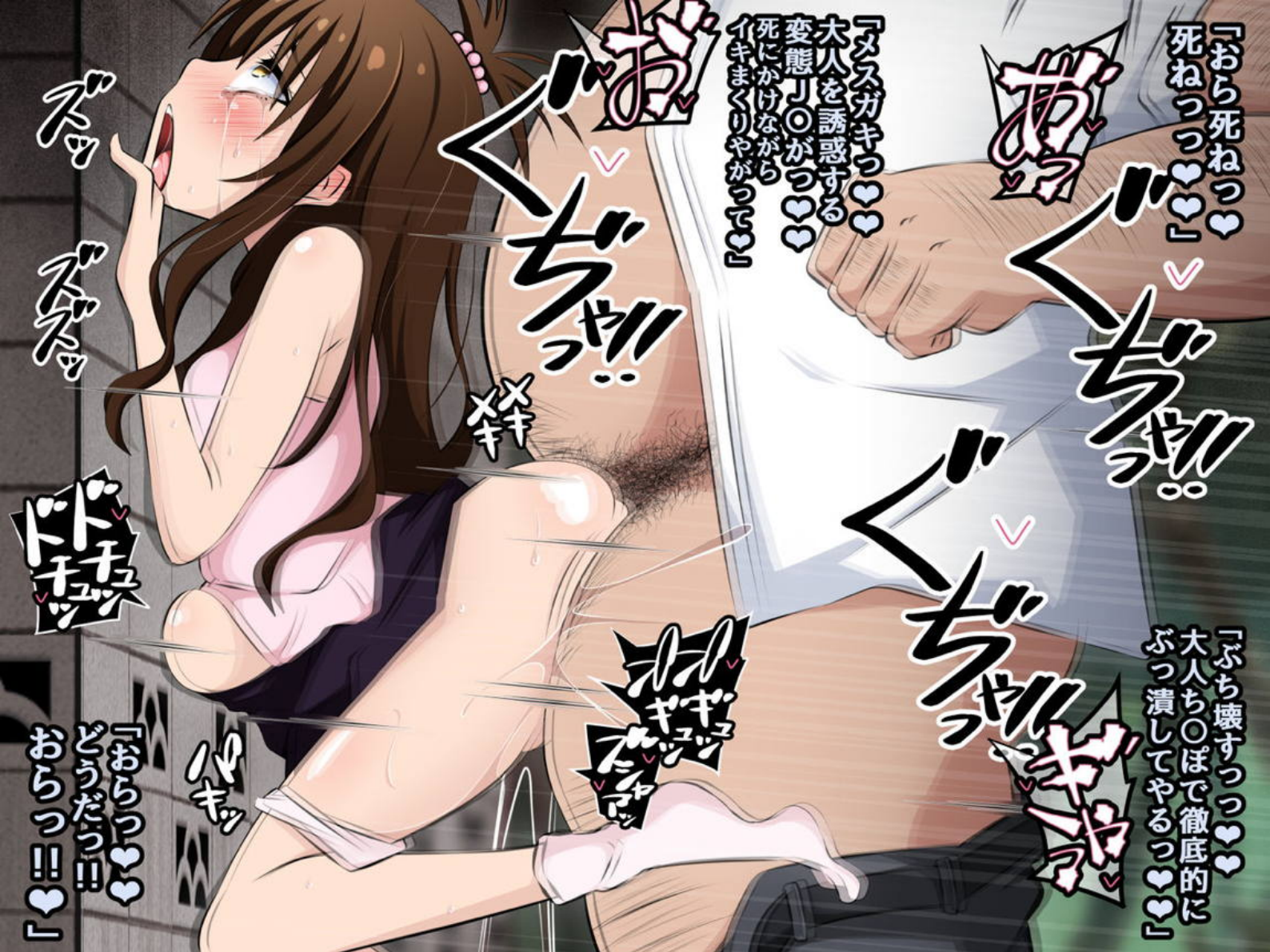
メスガキ

バタ

ゼクッ

バタ

「どうだ、死ぬほど
気持ちいいだろ？
美柑は痛みでも悦ぶ
メスマゾJ○に改造済
だからな♡
初めてのガチレイプで
潮を吹けるJ○なんか
なかなかないぞ♡
儂に感謝しろよ(笑)」



「おら死ねっ♡
死ねっ♡♡♡」

「メスガキっ♡♡♡
大人を誘惑する
変態J○がっ♡♡♡
死にかけながら
イキまくりやがって♡」

お

お
ぐ
ぢゃ!!

ぐ
ぢゃ!!

ぐ
ぢゃ!!

「ぶち壊すっ♡♡♡
大人ち○ほで徹底的に
ぶっ潰してやるっ♡♡♡」

お
ぎ
ぎ
ぎ

×
キ

ハ
キ

ズ
ズ
ズ

ド
キ
キ

「おらっ♡♡♡
どうだっ!!
おらっ!!♡♡♡」

ググッ

ギョッ

「つああ~~~~♡♡♡♡
気持ちえええ~~~~♡♡♡
無抵抗のメスガキに
性暴力叩きつけるの
堪らん~~~~♡♡♡♡♡♡

ぐちゃっ!!

ギョッ
ギョッ
ギョッ
ギョッ

ぐちゃっ!!

「薄〜い子宮壁越しに
感じる硬い壁の感触と
柔らかい内臓の感触の
サンドイッチっ♡♡♡」

「美相を挟んでち○ぽを擦る
極上のオナニーっ♡♡♡♡
腰が止まらんっ♡♡♡♡
壁オナだな壁オナ」

ギョッ
ギョッ
ギョッ

ギョッ

ズグッ

ドクッ
ドクッ

「ほれほれ
踏ん張らないと
すり潰されて
しまうぞ?」
あ、地面に足が着いて
ないのか(笑)」



グッ

ギョッ

「ふほほほつ♡
痙攣し出したか♡
まあこれだけ腹の中を
かき回されたら無理も
ない(笑)」

ぐちゃッ!!

ギョッ
ギョッ
ギョッ

ギョッ
ギョッ
ギョッ

ぐちゃッ!!

「まあ待てっ♡
まだ死ぬな(笑)
いま射精してやる
から…っ♡♡♡」

「お前らメスガキは痙攣
してからがイイんだ♡
陸痙攣で限界超えて
さらにギツチギチに
締めあげてくる肉壁を
ぶつつつ干切り
まくっつてえ…っ♡」

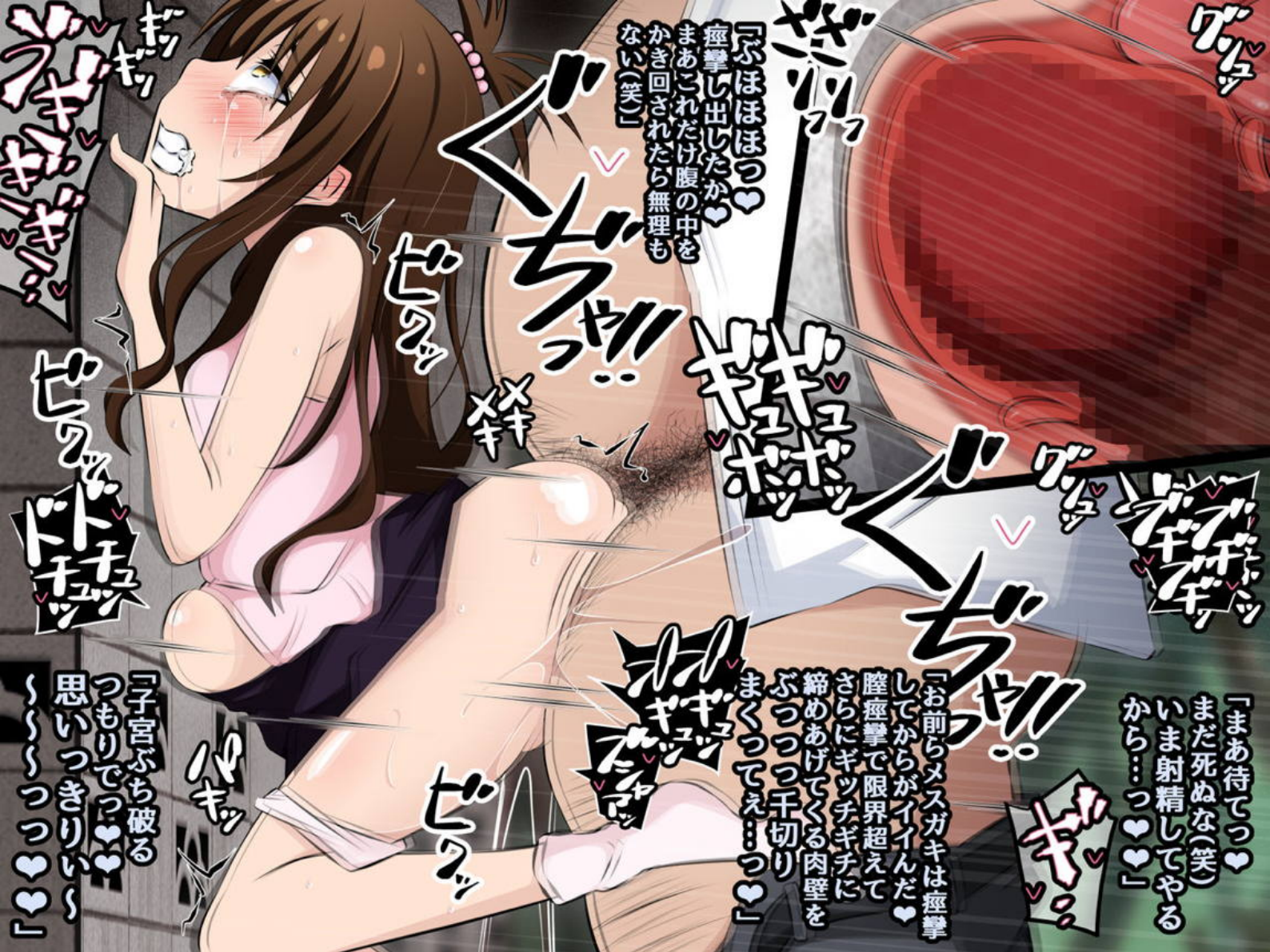
ギョッ
ギョッ
ギョッ

ぐちゃッ

ハキッ

ぐちゃッ
ぐちゃッ
ぐちゃッ
ぐちゃッ
ぐちゃッ
ぐちゃッ
ぐちゃッ
ぐちゃッ
ぐちゃッ
ぐちゃッ

「子宮ぶち破る
つもりでっ♡♡♡
思いつきりいっ
〜っ♡♡♡」





「トドメの 直射精っ♡♡」

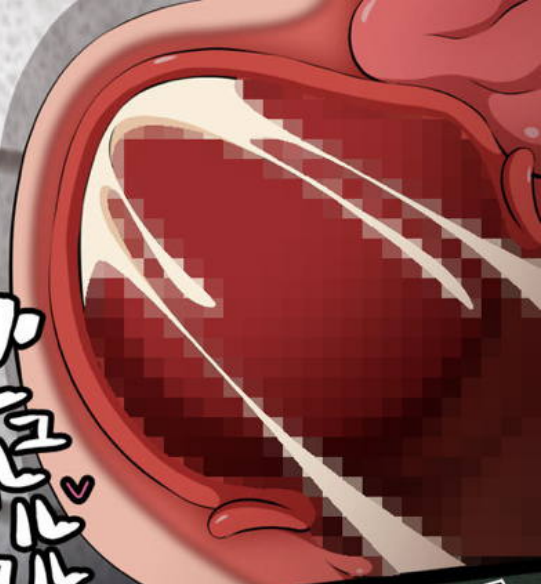
クワン

おわ

ア

ク
エツ

ガッ
うわうわ



ビョ
ビョ

「自分の半分以下の体格
しかない」○をさらに
洗脳して無抵抗化…っ♡
ち○ぼを悦んで受け入れる
状態にした上での一方的な
蹂躞…っ♡♡

完全勝ち確のレイプで
勝利の射精…っ♡♡

グ
下ユツ

せ

「おほっ♡
おほっ♡
あゝ最高…!!
最高の射精
だあ…っ♡♡」

ア

ブゾ

あ

せ

ブ
うらうら

「ガキの命を
無駄使いする
オナニーほど
気持ちのいい
ものはないなあ
っ♡♡♡♡」





美柑が買い物に出て
数時間後……

「ずいぶん遅いな
美柑のやつ——
卵が安いから隣町まで
買い物に行くって
言ってたけど……
やつぱりついて行けばよかった
迎えに行ってみるか……
外も暗くなってきたし」



世帯主

「？誰だ…？
美柑…じゃないよな
自分の家だし」

「おーん
ふかふかおおー」



「お届け物ですす♡
なんてな(笑)」

「!?」

う?

ガ

ジャ

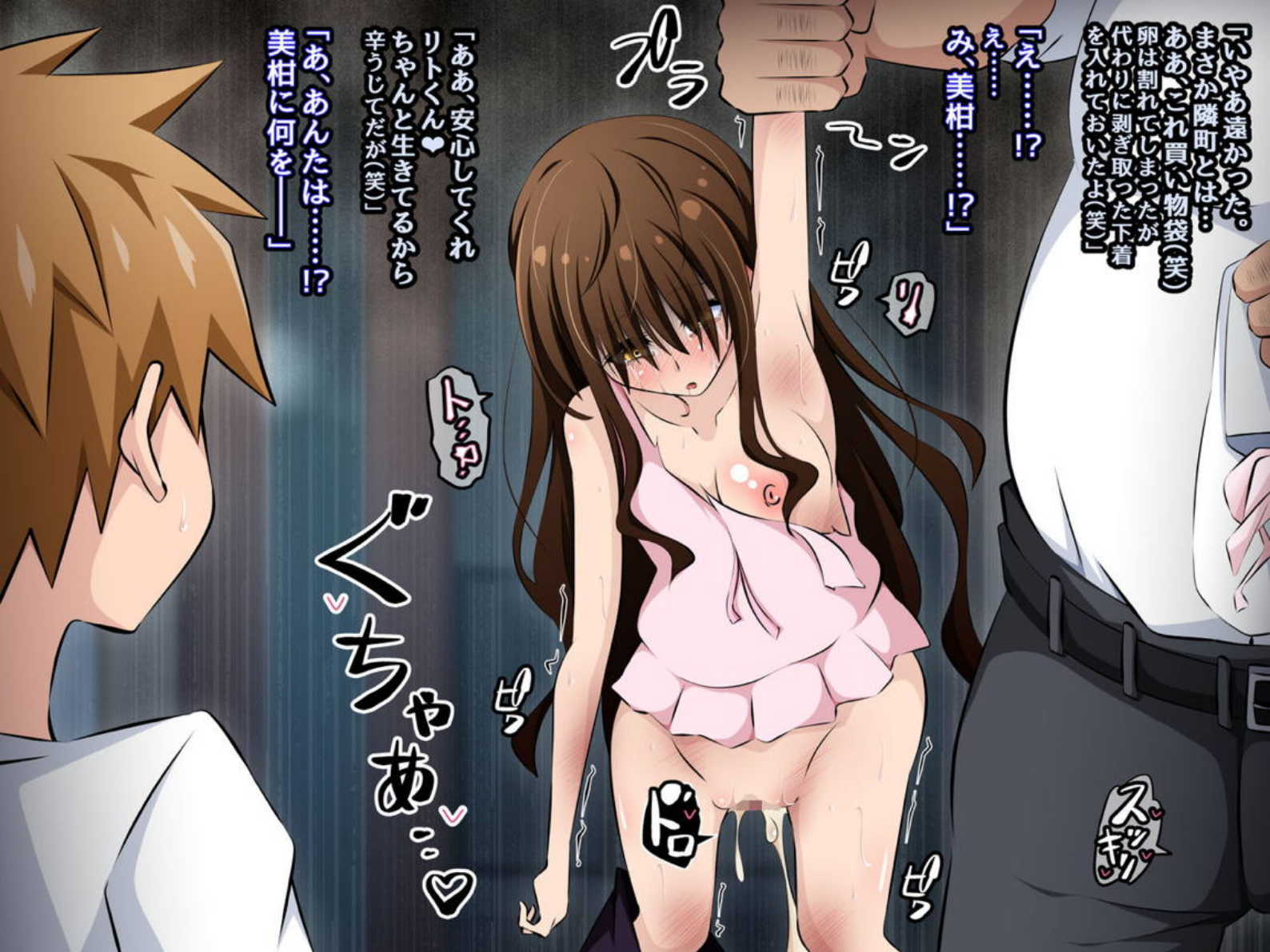


「いやあ遠かった。まさか隣町とは……ああ、これ買ひ物袋(笑)卵は割れてしまったが代わりに剥ぎ取った下着を入れておいたよ(笑)」

「え……!?」
え……
み、美柑……!?」

「ああ、安心してくれリトくん♡ちやんと生きてるから辛うじてだが(笑)」
「あ、あんたは……!?美柑に何を——」

「うわぁ」
ぐちゃあ♡♡♡



「いやあ、町でキミの妹をみかけてね!!
あんまり可愛かったんでついレイプしてしまつたんだよ♡」

大人げなく性暴力を何度も何度も叩きつけてしまつた♡」

「ぞ、そんな……っ!!」

カラ

「ああ、誤解しないでくれ? 美柑の合意を取つた上でのガチレイプだからな♡
體に落ち度はないぞ(笑) なあ美柑?」

はっ

ぐちゃあ♡♡

「感謝しろよ、普通ならその辺りに捨てられるところをこうして家まで運んでやつたんだ(笑) それに本来息の根が止まってもおかしくないのにこうして元気にピクついてるんだからな(笑)」

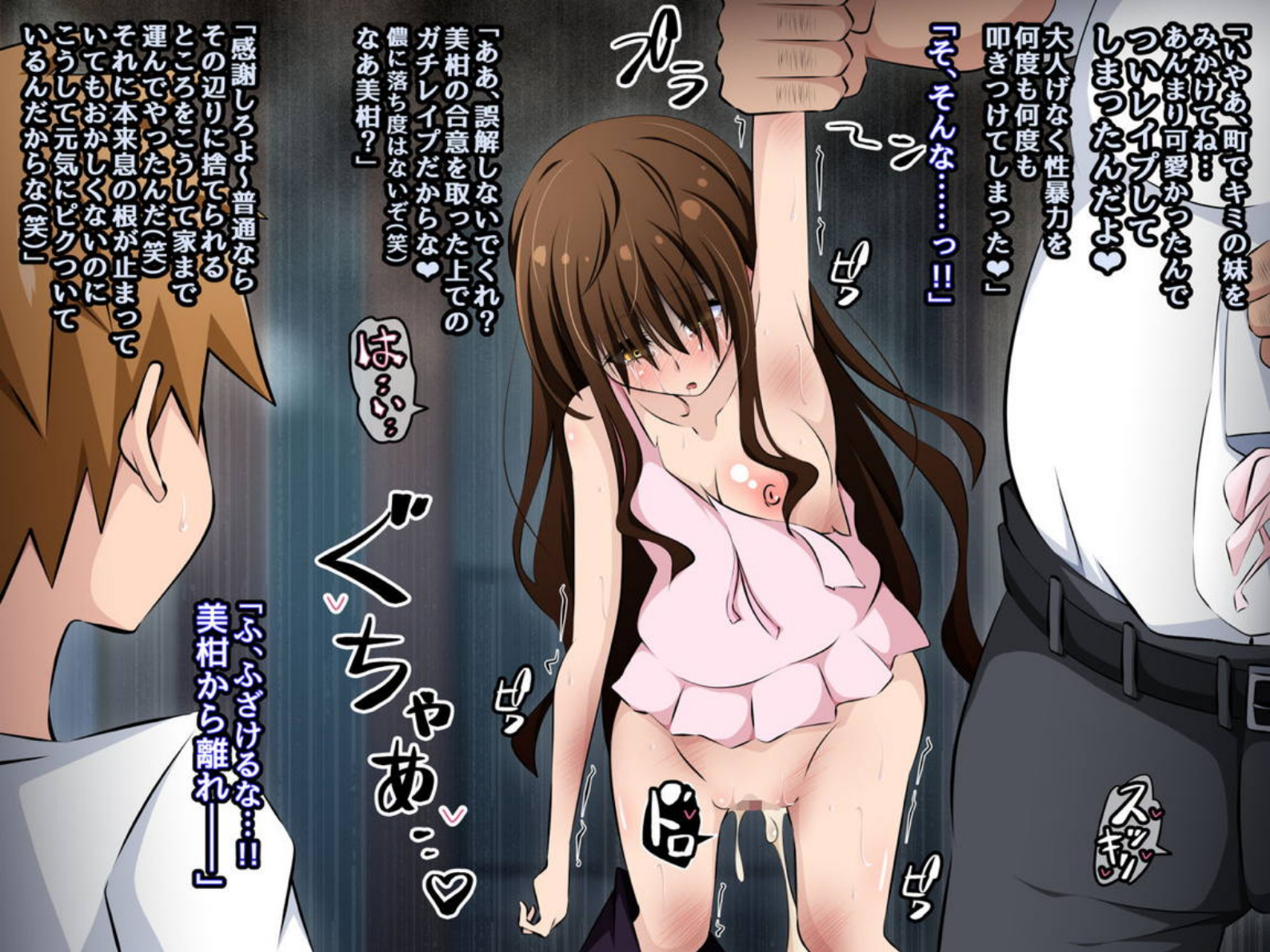
「ふ、ふざけるな…!!
美柑から離れ」

スギキ

はっ

はっ

はっ



「チノママシンの
おかげでな♡」

「!?」
「か、身体が……!?」

「はは、動けないだろ?
本来は医療用の技術も
今はこうして悪用
されているわけだ(笑)」

カ
ラ

「さて、本題だが…
わざわざ家まで来たのは
実は美柑のことが少々
気に入ってしまったってね?

しばらくここに住み込みで
完全に壊れるまで
使い倒そうと思うんだ♡
リトくんにはその間の
お世話係をお願いするよ」

「なに、言っつて……!!!」

「無駄無駄(笑)
キミも體に逆らうことは
できないんだよ」



ぐちゃあ♡♡♡
意識は残してやるが
身体は體の許可した
行動しかとれないよう
に調整したからな♡
オナニ(すら自由には
できないぞ(笑))

「……………」

「……ははは、そうか
許可せんと話せも
しないか(笑)」

「……よし、それじゃあさつそく食事でも作つてもらおうか♡
見での通り、美柑を使って激しい運動をしたせいで腹が減つてしまつてな♡
ここまで引きずつてきたのにまだ溢れてきおる(笑)」

「……………」

「そう睨むな、美柑なら大丈夫だ。あちこち骨折もしてるだろうが放つておけば勝手に治るようになっている(笑)」

カッ

ほ

ちゃ

ホ

ドロ

べ

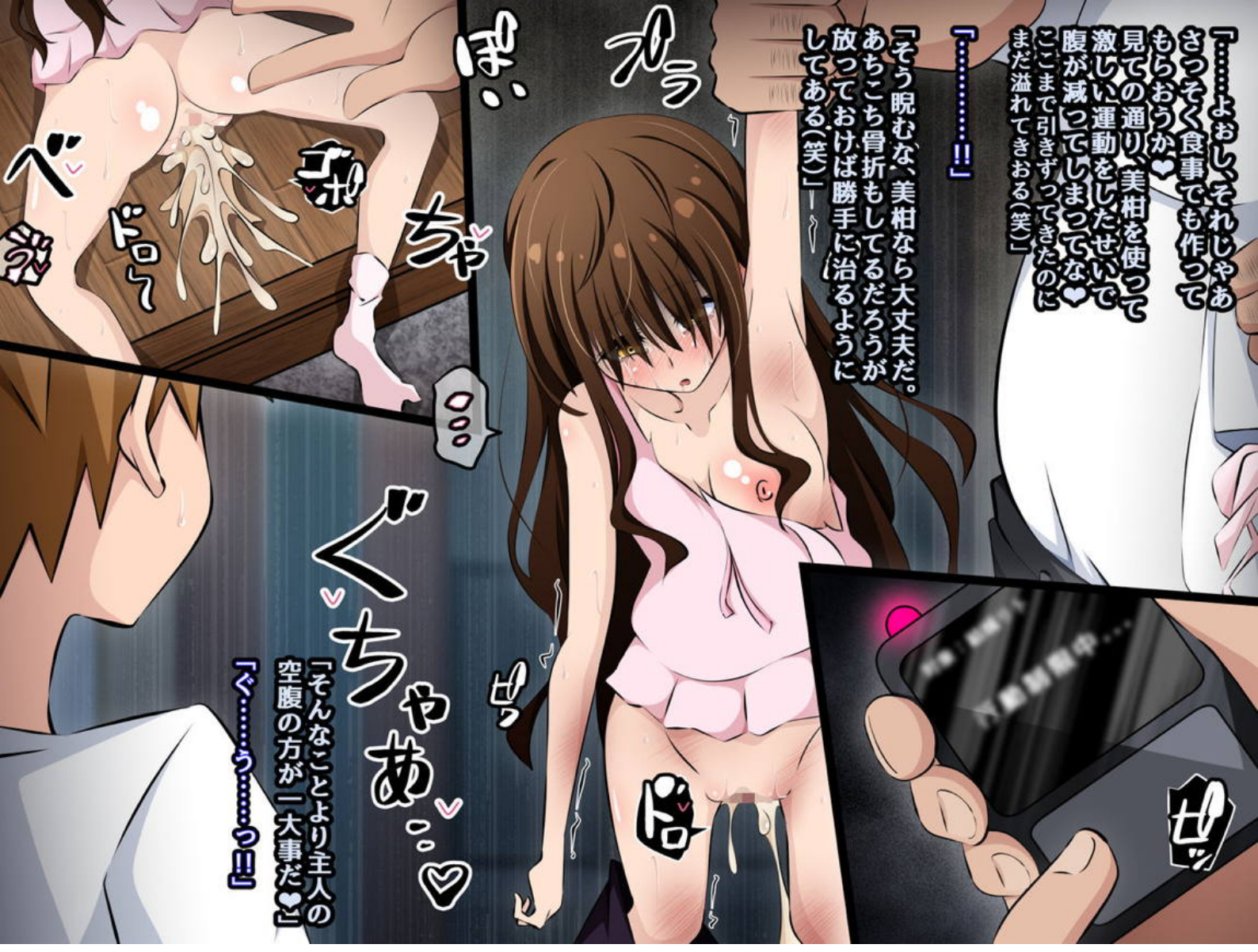
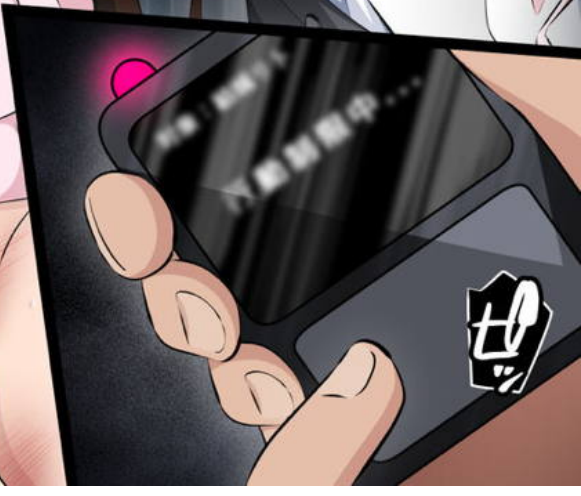
〇〇

ゼッ

ぐちやあ♡♡♡

「そんなことより主人の空腹の方が「大事だ」

「……………」



「ざあトリくん
「かしこまりました」
と言ったあと
住み込みで妹を
使い潰してやる
體に挨拶しなさい(笑)
感謝の言葉を添えてな」

「か、かしこまりました…
わざわざ家までお越し下さり
ありがとうございます…」

カ
カ
カ

ちゃ

ホ

ドロ

ベ

ぐ
ち
ゃ
あ
♡
♡

「み、美柑が潰れるまで
…どうかよろしく…
お願いします…」

「ぶほほほ(笑)
こちらこそ
よろしく(笑)」

「さあまずは食つて…
それからまた犯すぞ♡」



男に食事を作った後——
俺は美柑の『遺言』を見せられた……

『やつほーリト♡
見てる？美柑ですす
遅くなってごめんね♡』

突然だけども…私、
これからご主人様にレイプ
されることになったから♡』

「J〇がしていい顔
じゃないぞ美柑(笑)」

はあ♡

『ご主人様に壊されるの
すっごく愉しみでええ♡
あ、このままレイプも撮影
してくれるみたいだから♡
もし私が死んじやつたら
それ見て泣きながら
いっぱいシコシコ
してください(笑)』



はあ♡

ゾクゾク♡

『せじ遣い私
が生きたらあ……♡』

『わかる？
さつき会ったばかりの
大人にぐっちやぐちやに
犯されちゃうの……♡
ご主人様とはかなり
体格差があるから…
もしかしたら私、
死んじやつかも♡』

『そして…俺が次に
命じられたのは——』

男に犯される
美柑でオナニー
することだった…

『目の前でレイプ
されている私を見て
泣きながら
いっぱい「シ」
してください』
じゃあね〜(笑)』

「ふんっ!!!
ふんっ!!!
ふんっ!!!」



「ほっほほほっ♡
やはりエエのお
美柑のま〇こは♡
今まで食ったメスガキ
の中でもかなり上だ♡

この治りかけの
柔らかいのを
壊すのがまた
いいんだ♡」

「ほれしっかり
見とるか♡
リトくん♡」

「キミのベッドで
可愛い妹が押し
潰されとるぞ♡
助けなくてイイのか♡(笑)」



はめ

クマ
クマ

うん♡
うん♡

メスガキ
メスガキ

はめ

キ
キ

キ
キ

「このひっ♡
ちよつと体重をかけた
だけで壊れるとは脆い
のお、安物ベッドも
美柑も♡」

ギ
ギ

「どつちが割れる音が
分らんじやないか(笑)
木か骨か」

「うっ…」

「はは、もう射精とか？
どうだ、妹のパンツに
精液漏らす気分は(笑)
これからキミが使つて
いいズリネタは
美柑それだけだぞ♡」

「ほれ手を止めるな♡
これから儂の許しなし
には抜けないんだぞ？」

「今のうちに
目一杯シコつて
おきなさい(笑)」



世世
ユク

うっ

おま

おま

おま

ぐちゃぐちゃ

おま

おま

おま

「うっ…」

「はは、もう射精たか？
どうだ、妹のパンツに
精液漏らす気分は(笑)
これからキミが使つて
いいズリネタは
美柑だけだぞ(笑)」

「ほれ手を止めるな
これから儂の許しなし
には抜けないんだぞ？」

「今のうちに
目一杯シコつて
おきなさい(笑)」



クチュ
クチュ

クチュ
クチュ

「今から儂も
美柑の膣内に
ぶちまける
からな(笑)
キミも一緒に
もう一度射精
するんだぞ(笑)」

「は、はい…」

「よおし(笑)イクぞ…
イクぞお(笑)」

「ほれ、せいのっ」



「っはぁっはぁっ
あゝたまらん♡
妹のパンツで
シコる兄の前で
妹に膣内射精♡♡

目の前で妹が
壊されてるのに
泣きながら
射精するしか
ないとは可哀想
になぁ〜(笑)」

おえ♡♡♡

「これで身の程
がわかったろ？
美柑が體の
性玩具になった
時点でキミの
人生も決まった
んだよ。
體に一生仕える
童貞人形にね(笑)」

がっ

ビュルルルッ♡♡♡

ビビビッ♡♡♡



おえ♡♡♡

がっ

おえ♡♡♡

おえ♡♡♡

おえ♡♡♡

ビビビッ♡♡♡

おえ♡♡♡

「これからは反抗的な
目も許さんからな…
あゝりまだ射精る♡
キミの妹本当に美味しいな♡」

「いやあすまんね、
體がキミの妹
くらのメスガキを
徹底的に壊さない
興奮できない性癖な
ばっかりに♡
キミたち兄妹の
人生を台無しに
してしまって(笑)」
がう

んおる♡

「まあ運が悪かったと
思っで諦めてくれ♡
上流階級に奉仕するの
も下民の役目だろ」

「體も…ぶふ♡心苦しいよ…
美柑は本気でキミのことが
好きだったみたいだからね♡
もう書き換えて
しまったが」
がう



ビビビ
ビビビ
ビビビ
がう

ビビビ
ビビビ
ビビビ
がう

んおる♡

んおる♡

んおる♡

ビビビ
ビビビ
がう

「だからこうして
行き過ぎた兄妹愛を
矯正してやってるんだ
その点は感謝してくれ
たまえよ♡」
んおる♡

「んおる♡はい…
ありがとう…
いや、おれ…」

「どうだった？私がお主人様に壊されてるところ。どっちも使えたでしょ？童貞のリトには刺激が強すぎたかな(笑)」



「まあこれ見ても頭にはわかってると思っけど！もうリトもお主人様に絶対服従だから！これからは二人でお主人様に愉しんでもらえるように人生捧げて頑張ろうね！」

「おらもう一発っもう一発やるぞ美柑っ♡壊れるにはまだ早いぞっ♡」

「ほれリト君もっ！今日は目一杯シッれと言っただろ(笑)」



お

ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ

ク

お
ギョ
ギョ

ギョ

その日は結局十回：
男が美柑に射精する数
より多く美柑のパンツ
に射精した：

後になって
(ナノマシンで)
回復した美柑：

「全部足しても」主人様の
「発より少ないじゃん(笑)」
と笑われた頃には：

俺の中にはもう…
『主人様』に反抗する
気力は残ってなかった…



その日は結局十回：
男が美柑に射精する数
より多く美柑のパンツ
に射精した：

後になって
(ナノマシンで)
回復した美柑は…

「全部足しても」主人様の
「発より少ないじゃん(笑)」
と笑われた頃には…

俺の中にはもう…
「主人様」に反抗する
気力は残ってなかった…



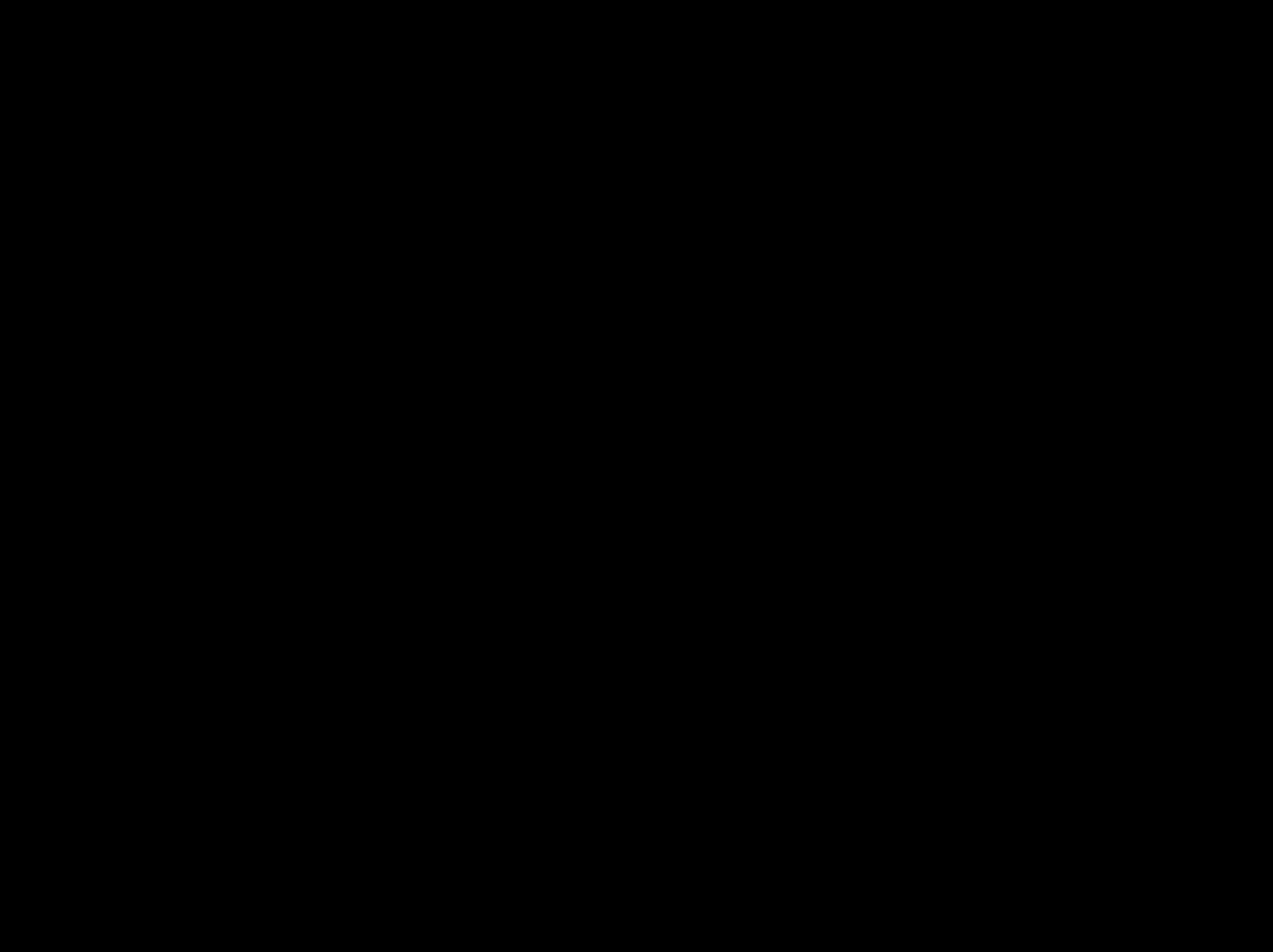
その日は結局十回…
男が美柑に射精する数
より多く美柑のパンツ
に射精した…

後になって
(ナノマシンで)
回復した美柑に…

「全部足しても」主人様の
「発より少ないじゃん(笑)」
と笑われた頃には…

俺の中にはもう…
『主人様』に反抗する
気力は残ってなかった…





Chapter. 2 : 人権無視の性処理生活♥

あれから一ヶ月——
俺はリビングで寝起きしている。
俺の部屋、美柑の部屋、
両親の部屋などは全部
あの男——『ご主人様』が
使うことになったからだ。

「過ぎになると
はご主人様に食事を
つていかなければならない。
日は……俺の部屋だ。」

あれから一ヶ月——
俺はリビングで寝起きしている。
俺の部屋、美柑の部屋、
両親の部屋などは全部
あの男——『ご主人様』が
使うことになったからだ。

昼過ぎになると
俺はご主人様に食事を
持っていかなければならない。
今日は……俺の部屋だ。

「失礼します……..
お食事を…お持ちしました」

コッ
コッ

「おお、リトくんか♥
入りたまえ」

「おほ……」

そして、
ご主人様がいる
部屋では必ず――

美柑が犯されてる...

「ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡ふんっ♡」

ドズッ
ドズッ
ドズッ

「あーリトくん♡
悪いが食事はその辺に
置いていてくれ」

「今は美柑を美味しく
頂きたいな♡」



「は〜……」

俺と美柑はいつの間にか
仕込まれたナノマシンで洗脳され、
『ご主人様』に逆らえなくなった…

ドヂュッ
ドヂュッ
ドヂュッ
ドヂュッ

学校にも通わせて
もらえずに
四六時中犯され、
壊されているのに…
とても幸せそうだ。

美柑は人格ごと脳を改造され、
完全にご主人様に服従している…

そして俺は…
身体のみ自由だけを奪われ、
それを見せられている…



うきうき

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ううう…

ガッ

うきうき

「いやあ〜寝起きに軽く一発のつもりだったのだが…つい本気になってしまつてな♡」

「……………」

ドグジュッ
ドグジュッ
ドグジュッ

「特にキミのベッドだと格別でねえ♡美柑の抵抗感が何故か少し強いんだよ♡さすが元想い人の部屋といったところかな♡」

ギ

ギ

ワム

ギ

うきうき

ギ

ワム

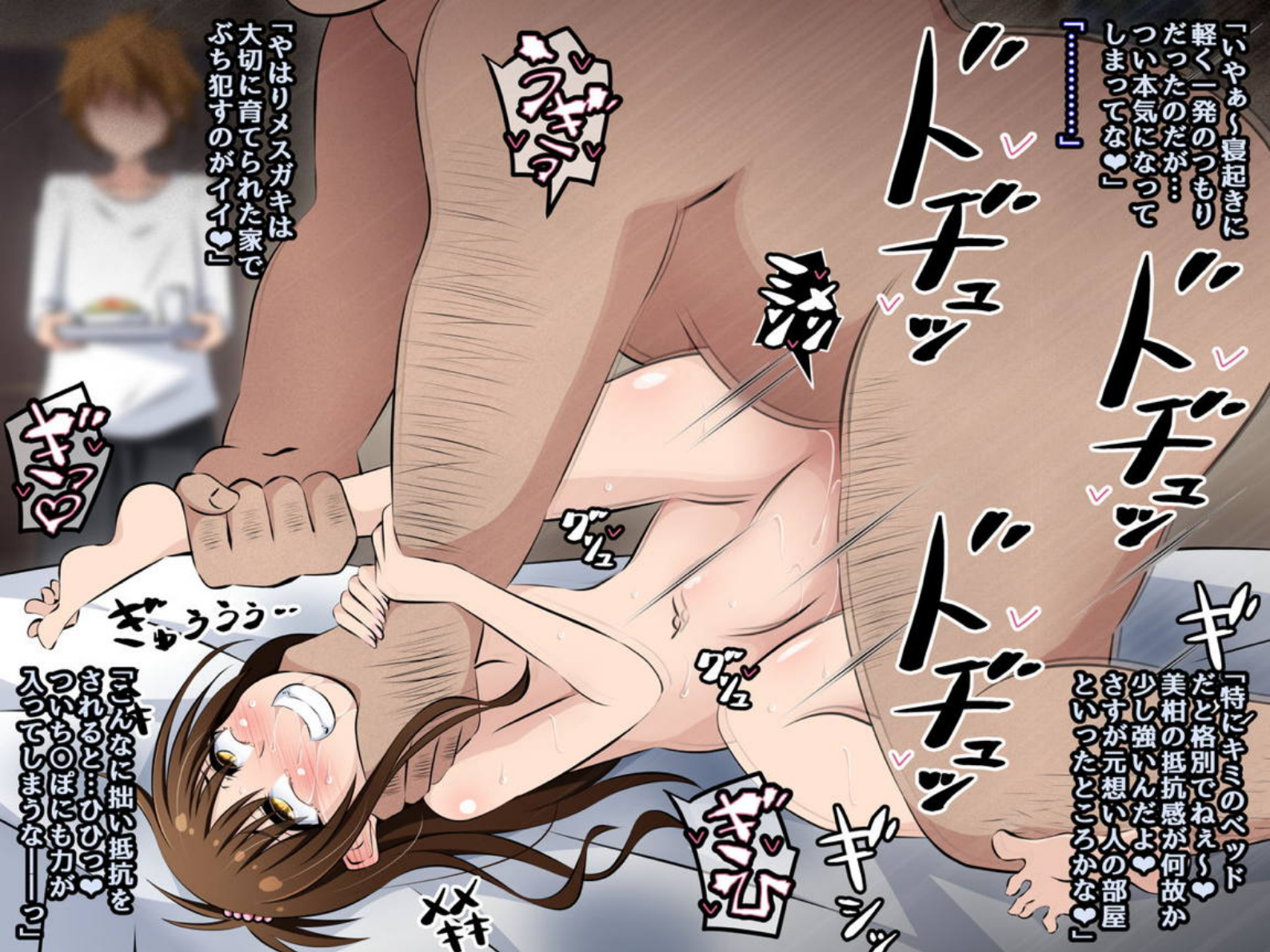
ギ

「やはりメスガキは大切に育てられた家でぶち犯すのがいい♡」

ギ

ぎゅうううう

「そんなに拙い抵抗をされると…ひひっ♡ついちのぼにも力が入ってしまうな…」



※ご注意※
このあと歯なし描写があります。
(ファイルNo.[202],[302],[304])

血は出ませんが
苦手な方はご注意ください。

「そうだ、面白いものを見せてやろう♡
ナノマシンの使えば
こんなこともできるんだ」
「え…?」



「ほれ、手を出しなさい」
「!?!?」
「これって…!?」



「ひっひっひっ♡
よし美柑、
見せてみる」
「み、美柑…!?」
「ほ、ほっ…♡」



「おーよしよし♡
綺麗に全部抜けたなあ♡」

ぬ♡

あ♡
ん♡
ん♡
ん♡

は♡
あ♡

く♡
ち♡
あ♡

「ひっひっひっ♡
ナノマシンを使えば
手術いらすとうわけだ♡
見ろ、この抜けたばかりとは
思えんつるつるの歯茎♡
気持ちいいぞ♡これは♡」

はー♡

はぁ♡

「あゝそういえば
抜けた永久歯は
元には戻せないが
構わんよな？
いくらナノマシンでも
なくなつたものは
作れないからな」

くちあ

「儂のちのぼを入れるには
美柑の口は小さすぎでな…
捻じ込むとどうしても
歯が当たつてしまうのが
前々から難点だったんだ
これで解決だな♡」

ぬ♡

はー♡

「すまんね、また
事後承諾になつて♡
せめてソレは君が大切に
持っていてやってくれ(笑)
使つた期間も短いから
綺麗なもんだろ♡」
「う…うう…っ」

「おおっっっ♡
ほっほほほ♡
いいっ♡
いいぞお♡
いっいオナホだっ♡
こりこりの歯茎を
根元で感じながら
みっちみちの喉で
ち○ぽをぎゅっっ
絞り上げるっ♡」

ゴキッぽっ♡

ゴキッぽっ♡

「美柑に空いてる穴は
どこも「級品だなあ♡
キミも兄として
誇らしいだろ
リトくん♡
これが美柑の
正しい使い方だ♡」

「ふっっ」

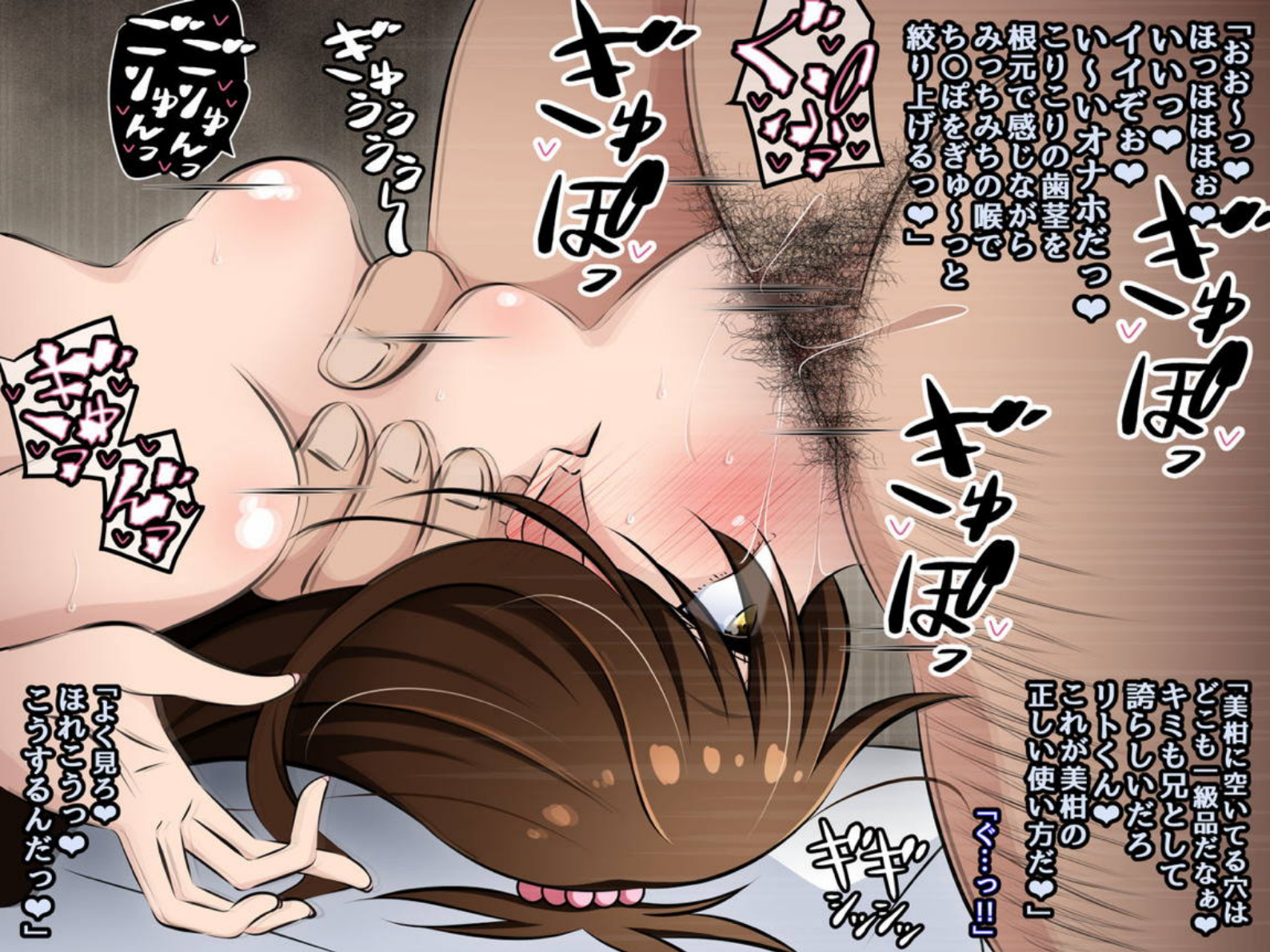
キキキ

ゴキッぽっ♡

ゴキッぽっ♡

ゴキッぽっ♡

「よく見る♡
ほれごうっ♡
こうするんだっ♡」



「こんな…っ
これじゃあ
息が—」

「息？
もちろんできてる
わけないだろ(笑)」

ゴキッぽっ

ゴキッぽっ

ゴキッぽっ

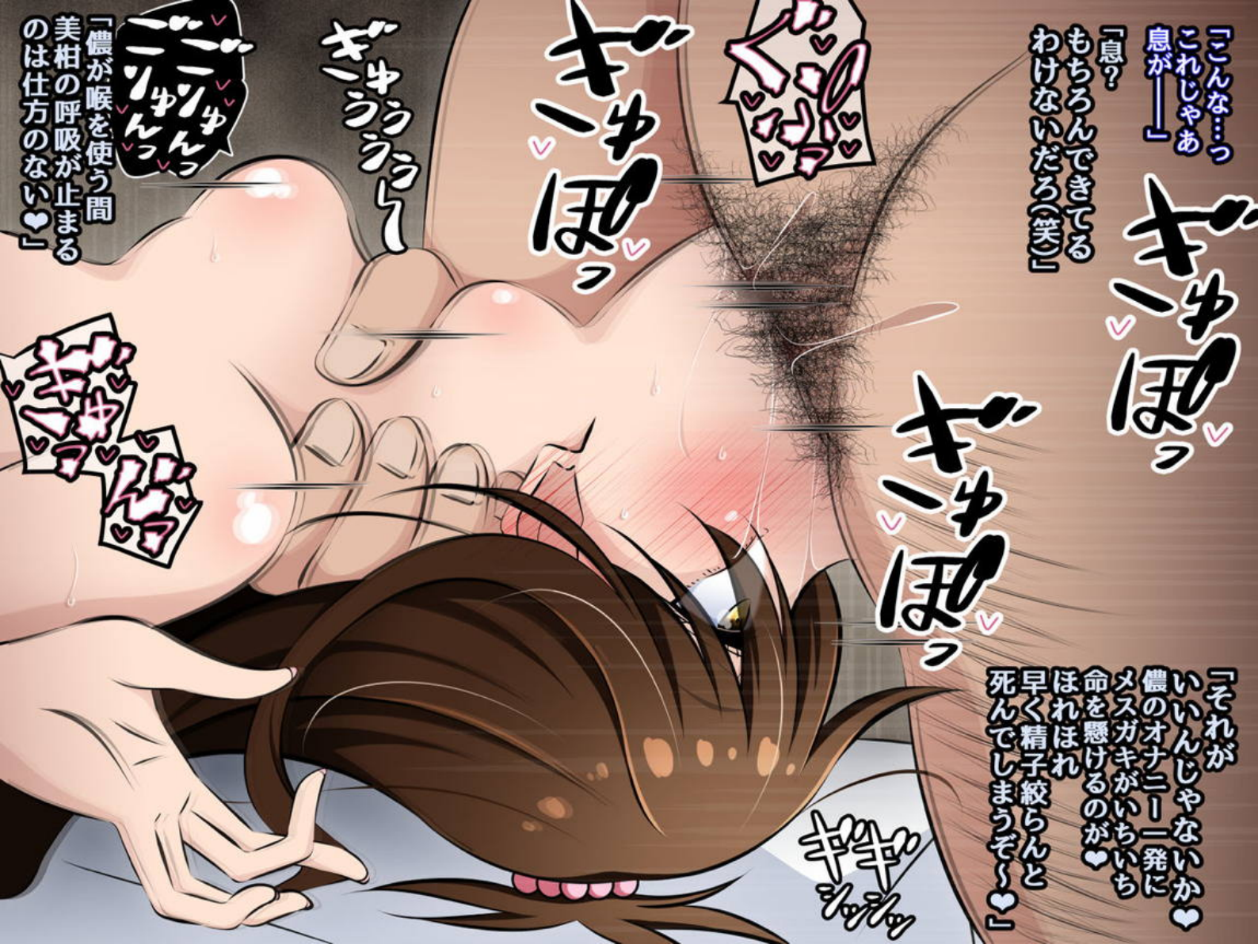
ゴキッぽっ

「儂が喉を使う間
美柏の呼吸が止まる
のは仕方ない♡」

ゴキッぽっ

「それが
いいんじゃないか♡
儂のオナニー一発に
メスガキがいちいち
命を懸けるのが♡
ほれほれ
早く精子絞らんと
死んでしまっぞ♡」

ゴキッぽっ



「おっ♡おっ♡おっ♡
よおしいぞおっ♡
歯茎でち○ぽを
ハミハミするんだっ♡
そのためにせつかく
生え揃った大人の歯を
全部抜いたんだろ♡」

ははみ

ギョッ
ギョッ
ギョッ

ギョッ
ギョッ
ギョッ

「美柑の無呼吸♡奉仕で
精子昇ってきたっ♡」

「.....」

ギョッ
ギョッ

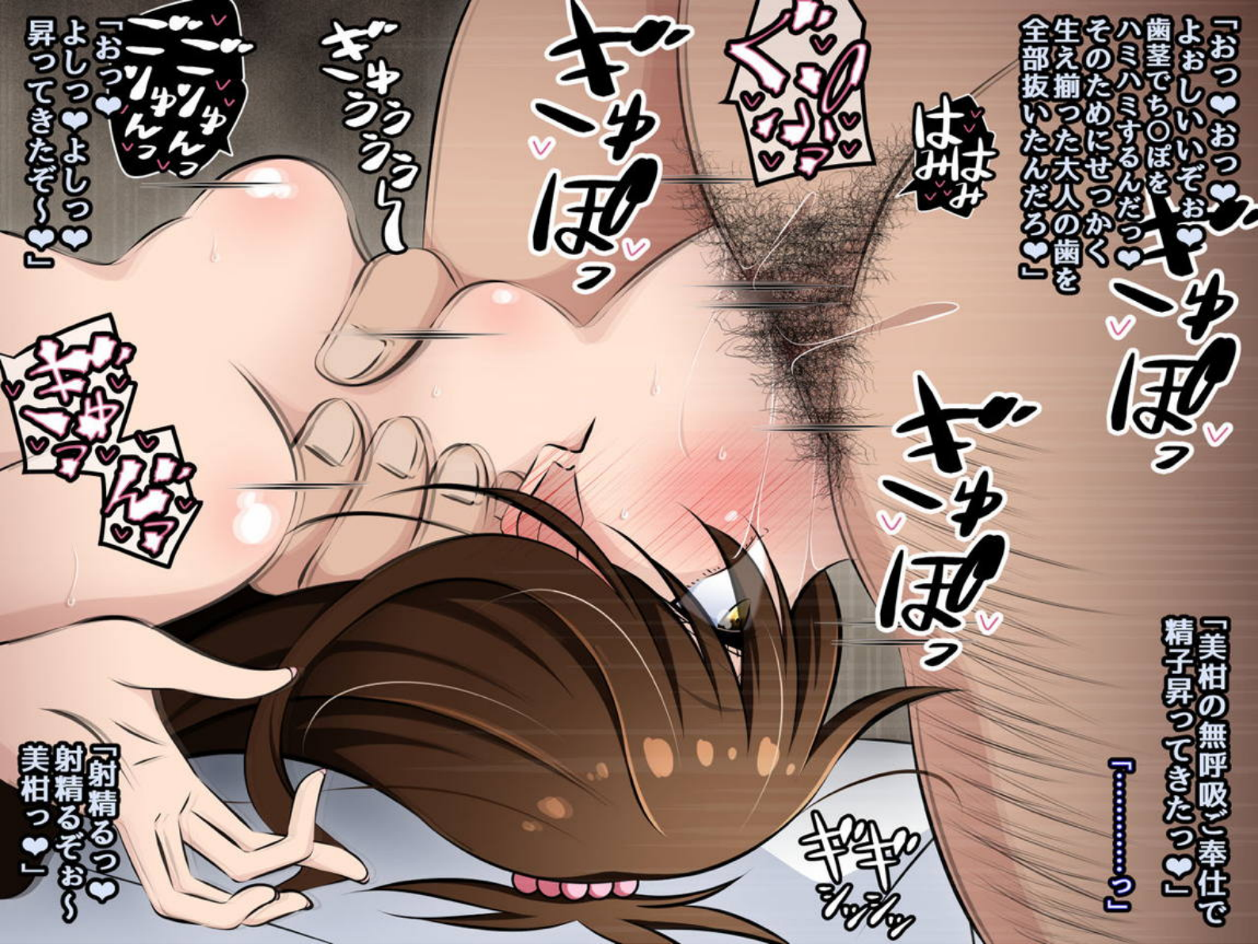
ギョッ
ギョッ
ギョッ

ギョッ
ギョッ
ギョッ

「おっ♡
よしっ♡よしっ♡
昇ってきたぞ♡」

ギョッ
ギョッ
ギョッ

「射精るっ♡
射精るぞおっ♡
美柑っ♡」



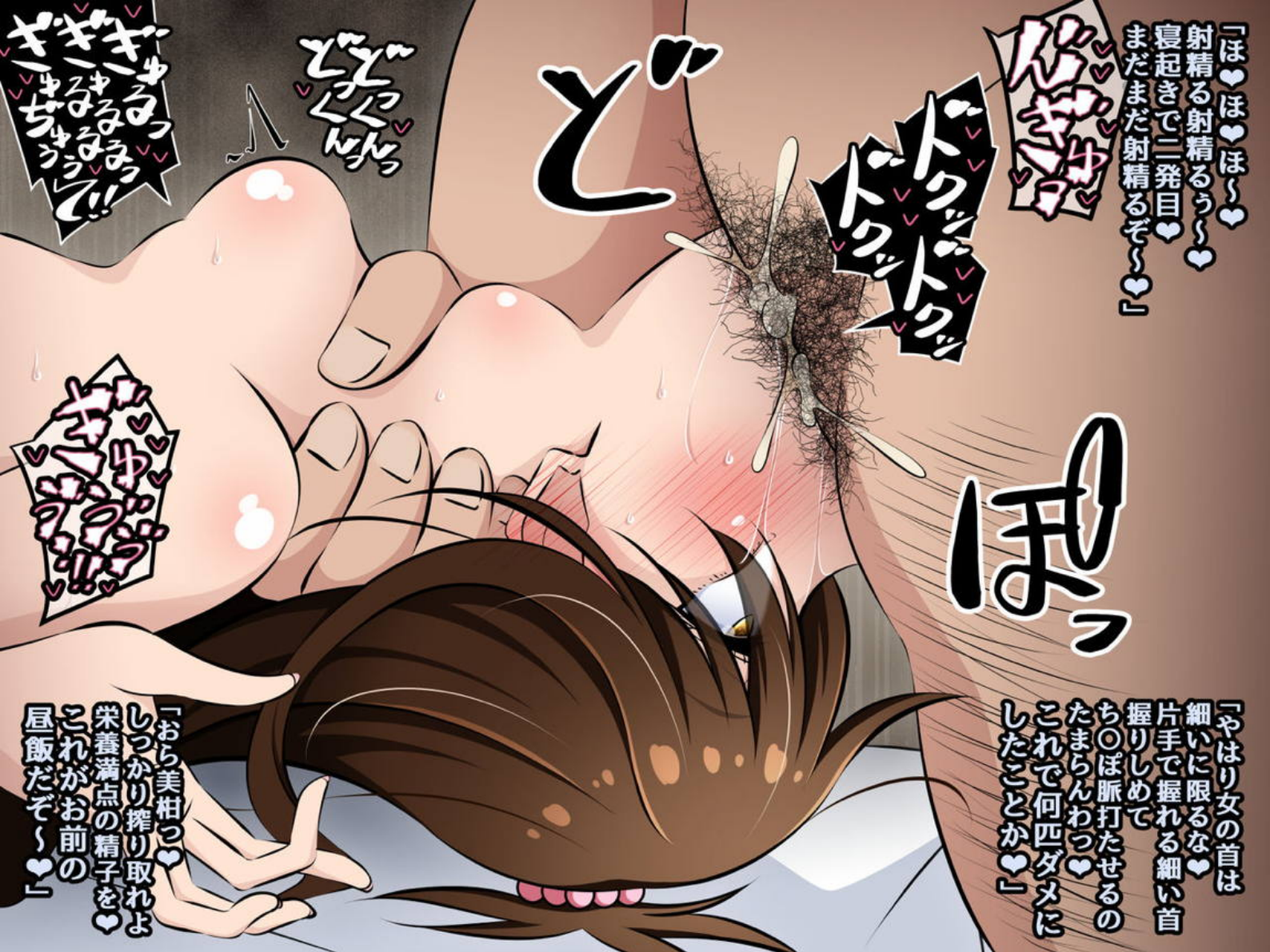
「おっおっおっ」

おっおっおっ
おっおっおっ
おっおっおっ
おっおっおっ
おっおっおっ

ど

ぽ





「ほ♡ほ♡ほ♡
射精る射精るう♡
寝起きて二発目♡
まだまだ射精るぞ♡」

ん♡き♡せ♡

ト♡ク♡ト♡ク♡
ト♡ク♡ト♡ク♡

ど

ど♡ん♡ど♡ん♡
ど♡ん♡ど♡ん♡

ギ♡ギ♡ギ♡ギ♡
ギ♡ギ♡ギ♡ギ♡
ギ♡ギ♡ギ♡ギ♡

ほ

「やはり女の首は
細いに限るな♡
片手で握れる細い首
握りしめて
ち♡ほ脈打たせるの
たまらんわ♡
これで何匹ダメに
したことが♡」

「おら美柑♡
しっかり搾り取れよ
栄養満点の精子を♡
これがお前の
昼飯だぞ♡」

「……ふう〜♡
射精た射精たあ…
……あ〜」

「う……びりびりびりびり」



トロ…

「こうして元気に
痙攣しているうちは
大丈夫だよ♡
たぶん(笑)」



ビクッ

ビクッ

「ん？なんだね？
……ああ、心配するな(笑)
いいからもう少し
余韻に浸らせろ♡」

ビクッ

「この若い命を
片手で握ってる
優越感♡
ん？これぞ
上流階級にのみ
許された特権♡」

「……っ」

おろろろおろろ!!

け

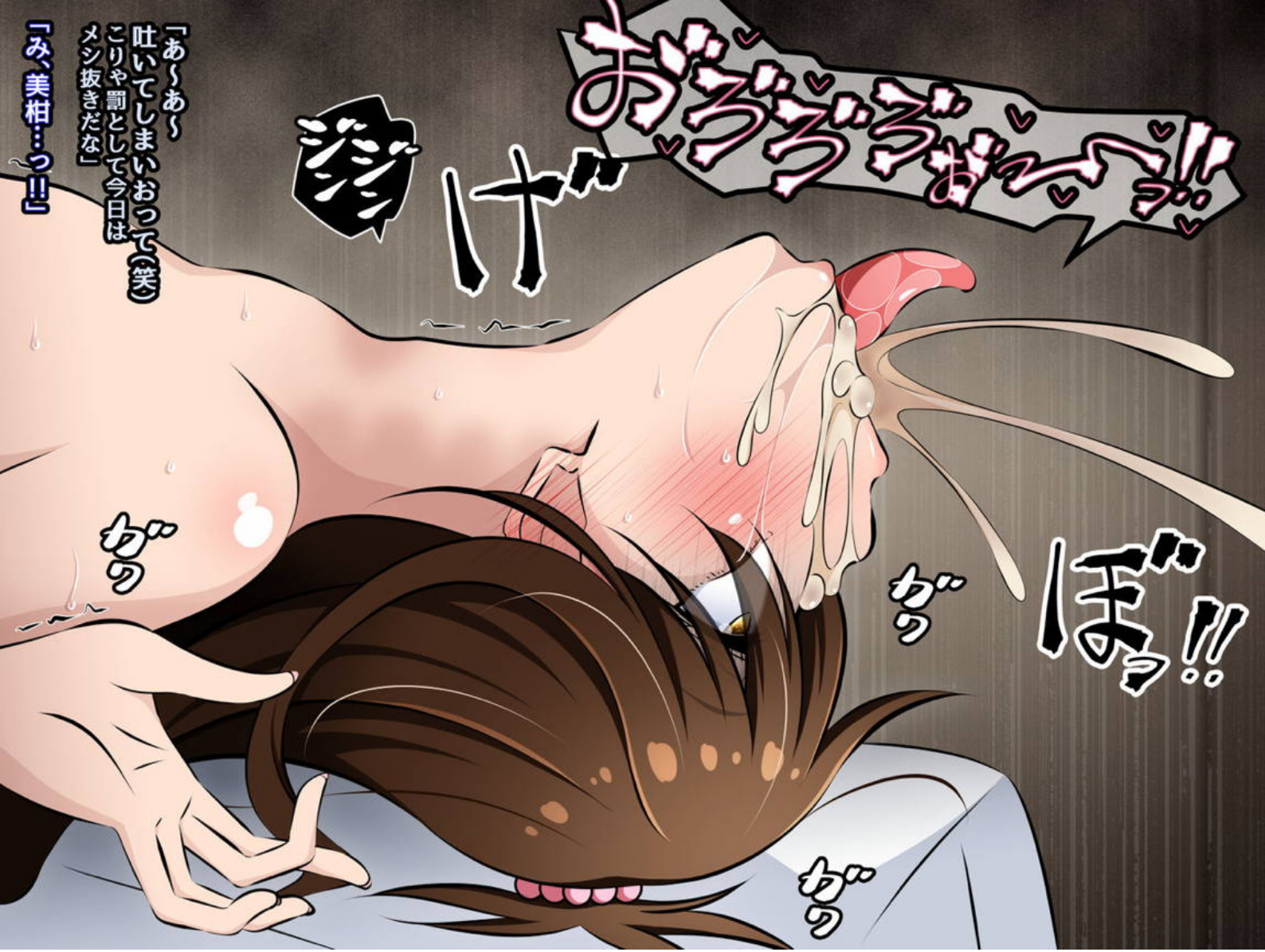


ぼ!!

が

が

が



「あゝあゝ
吐いてしまいおつて(笑)
こりや罰として今日は
メシ抜きだな」

「み、美柑...っ!!」

おろろろおびっ!!

け

「何を心配してる(笑)
まさか美柑が苦しんでる
とでも思ってるのかね?
美柑はもう何をされても
悦ぶクソマゾJ○なんだ
わかってるだろ?」

「……」

ぼっ!!

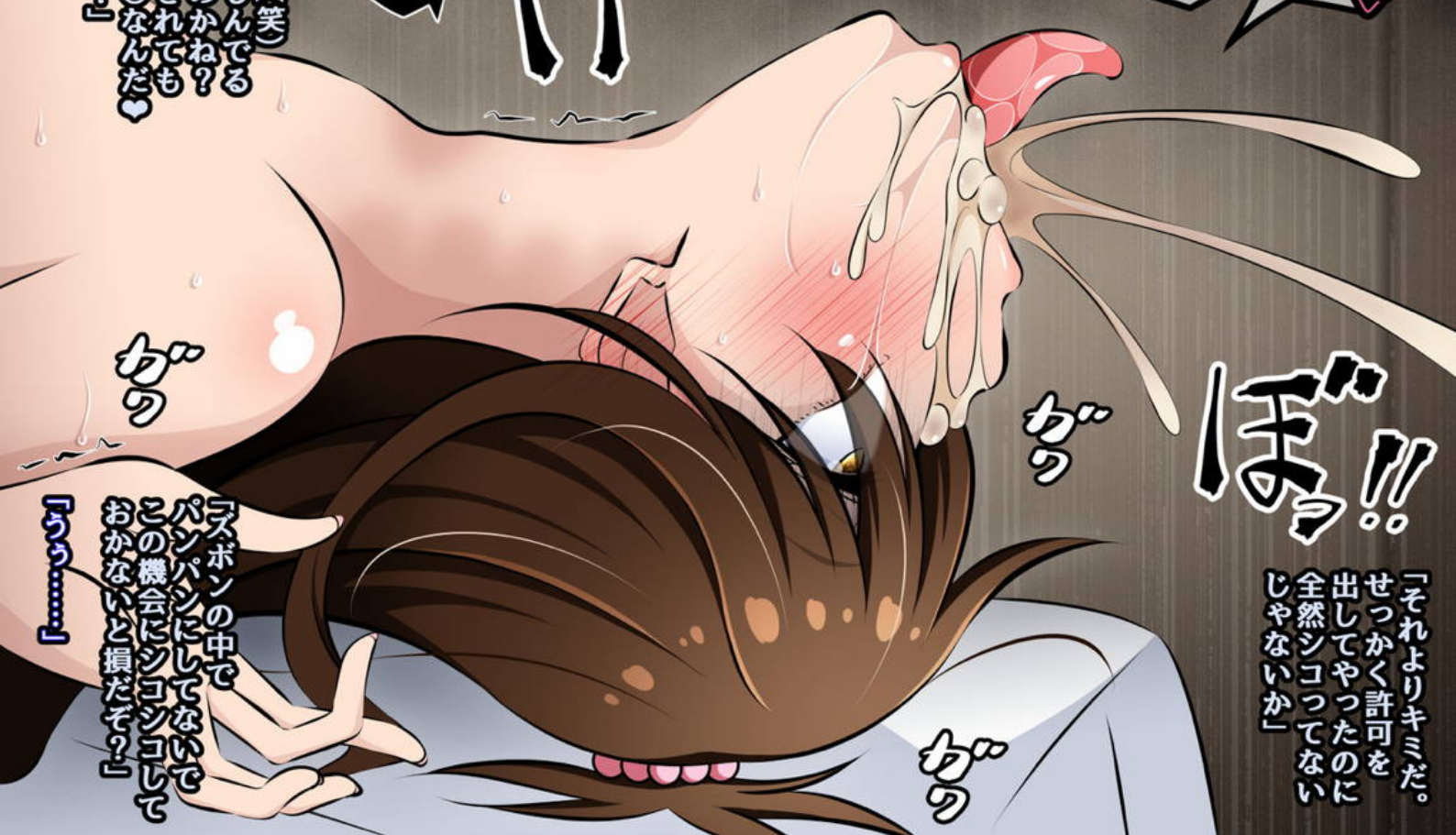
「それよりキミだ。
せつかく許可を
出してやったのに
全然シコってない
じゃないか」

が

が

が

「……」
ラスボンの中で
パンパンにしてないで
この機会にシコンソ
おかないと損だぞ?」





「うむ♥美味しい美味しい♥
儂は庶民の料理にも
理解があるからな♥
以前は美柑が
作ってたんだって?」

「はい……
家事はほとんど
美柑が……」

「そうかそうか
本当によくできた
妹だったんだな
オナホになる前は♥」



「しかしさすがに儂が
持ってきた最高級の酒
には合わんな(笑)
ほれ! いい加減
起きんか美柑っ!
腹ごなしに
もう一発やるぞ♥」

「おぽっ!?!♥」

「まったく……
油断するとすぐ
気絶するなお前は♥
しっかり自分の役目を
果たしてるリトくんを
少しは見習え(笑)」

「え…!？」

「ああ、そういうえばこれも
見せたことなかったか？
イイ飲みっぷりだろ？
儂が仕込んだんだ♥」

カハ

お♡♡♡

「良い子のみんなは
真似しちゃダメだぞ
美柑みかんみだいに特殊な
改造くんれんを受けてないと
死んでしまうからな」

「……………」

トボトボ

キキキ

カハ

「アルコールはなあ、
こうやってケツから
飲ませた方が遥かに
キクんだ♥
その分キケンだがね」

お♡♡♡

カハ

「ほくれ「気♡気♡
ペース落ちてるぞ」(笑)
儂の酒が飲めんのか」



「ほ♡おほおほ
おほ…♡♡♡」

ぬほっ

ちゅっ

「よおし
よく飲んだ♡
ぶほほほっ
赤くなって
美味そうだな♡♡
ケツ穴から酒一瓶
飲み干して恍惚としてる
J〇は世界中探しても
キミの妹だけだろうな(笑)」

カハ

ああっ

かあ

ちゅっ

カハ

ぐわん

ぐわん

ちゅっ

「な…なんのために
ごんな…」

「ん…?
決まってるだろ♡
単に美柑の命で遊びたい
のもあるが…(笑)」

「お♡おほっ♡」

「こうするとなあ…
ただでさえ高い体温が
さらに上昇して」



「気持ちいい
からだよっ♡」

ズ

ズ

おっぱい
おっぱい
おっぱい



「ん〜いいぞいいぞ〜
アツアツドロドロの
い〜いハメ穴だあ〜っ♡
こりやあ確実に
40℃以上あるなっ♡」

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

「さうしているうちにも
ぴつちぴちの脳細胞が
死んでいつてるわけだ♡
美柑の頭がすつからかんに
なる日も近いかもな〜♡」

「……………!!」

メ
キ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

「可哀想にな〜学校の
成績も良かったのに♡
でも安心しろ♡
女は結局顔とハメ穴で
人生が決まるんだっ♡」

「さういう意味じゃ
美柑は超優等生だな♡
優秀過ぎて俺のオナホ
以外の道は閉ざされた
わけだが(笑)」



「いいか美柑っ
お前の人生は僕のち○ぽを
気持ちよくするためだけに
あるんだっ♡♡
腰を絶対下げるなよっ♡」

「大人の体重を
その華奢な身体で
支えられてこそ
優秀な」○オナホだっ♡」

ズ
ン
ッ

ズ
ン
ッ

ズ
ン
ッ

メ
キ

メ
キ

ズ
ン
ッ

ズ
ン
ッ

ズ
ン
ッ

「ひと突き毎に
命を消費して貰ってる
ことに感謝しろっ♡♡」

「大人の性暴力で
壊されることに
感謝しながら…
しっかり射精
受け止めるっ!!」



「うっ♡♡♡
ふうっ♡♡♡
ふうっ♡♡♡」

おんっ♡♡♡

カン!

おんっ♡♡♡

ド

「うっ♡射精るうっ♡
早くも本日三発目なのに
勢い止まらない♡
アルコール漬け」
美味過ぎるうっ♡♡♡

ゼクッ

「兄貴に作らせた料理で
回復した体力で妹を
ぶち犯すというのも
いいアクセントに
なつてたなあ…♡♡」

「んっ♡♡♡」

ゼクッ

「ぶぶっ♡はははは(笑)
本当にキミはいい顔する
なあっリトくん♡
意識残しといて大正解
だったよ♡」

おんっ♡♡♡

「ほれっ♡ほれっ♡
どうしたリトくん!
助けなくていいのか
大事な妹が目の前で
壊されてるぞっ♡」

んんん

「ナノマシンでの
改造や無茶な治療で
こうしている間にも
どんどん寿命が減って
いつてるんだっ♡」

みぢゅん!!

みぢゅん!!

「ほれっ♡
少し手を伸ばせば届く
距離じゃないかっ♡
頑張れっ♡
ナノマシンの支配
などに負けるなっ♡」

んんん

×キ

×キ

みぢゅん!!

ゼン

「こういうとき
漫画の主人公なら
気合でなんとかする
もんだろ(笑)」

「……………」

んんん





「あゝ最高♡
射精は一日何度しても
気持ちがいい...♡
男はこの瞬間のために
生きてるようなもん
だよなあゝ♡」

あゝ♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

ビュッ
ブド

ビュッ

カッ

セリッ
ガガガガ

ビュッ

「僕はこの何十年
一日だって欠かした
ことはないぞ？
メスガキを使って
射精するのをな♡」

「キミみたいにひと月も
オナ禁するなんて
僕には信じられん(笑)」

「.....」

ぐら
ぐら

おん
おん
おん

「あゝあゝまた吐いてしまいおつてちよつと尻から酒飲んだくらいで情けない♡
そんなことじゃ社会に出てやっていけないぞ？
もう胃の中もからっぽだろうに(笑)」

ビビ
ビビ

ビビ
ビビ

「しかし本当に強情だね
リトくんも…
ここでオナニーするのが
そんなに嫌かい？
自分の部屋だろ(笑)」

「……………」

「あーいや、わかってるよ
儂らにオナニーを
見られるのが
恥ずかしいんだろ？」

「え……」

ビビッ
ビビッ

クワッ
クワッ

「そりやそうだよなあ♡
性欲発散のために
ぶち壊されてる妹で
勃たせたち○ぽを
独りで情けなく擦る
負け犬オナニーだ♡
人前じゃできんよな♡」

「ちが……」

「仕方ない！
今日は特別に別室で
オナニーすることを
許そう♡
動画を送ってやるから
隣の部屋で待つて
いなさい」

「……」

ビビッ
ビビッ

命令されてしまうと従うしかなく、俺は隣の部屋で待機していた…



漏れ聞こえてくる
美柑の声を聴きながら…



スマホが鳴ったのは
それから六時間後……



ズ
ン

ズ
ン

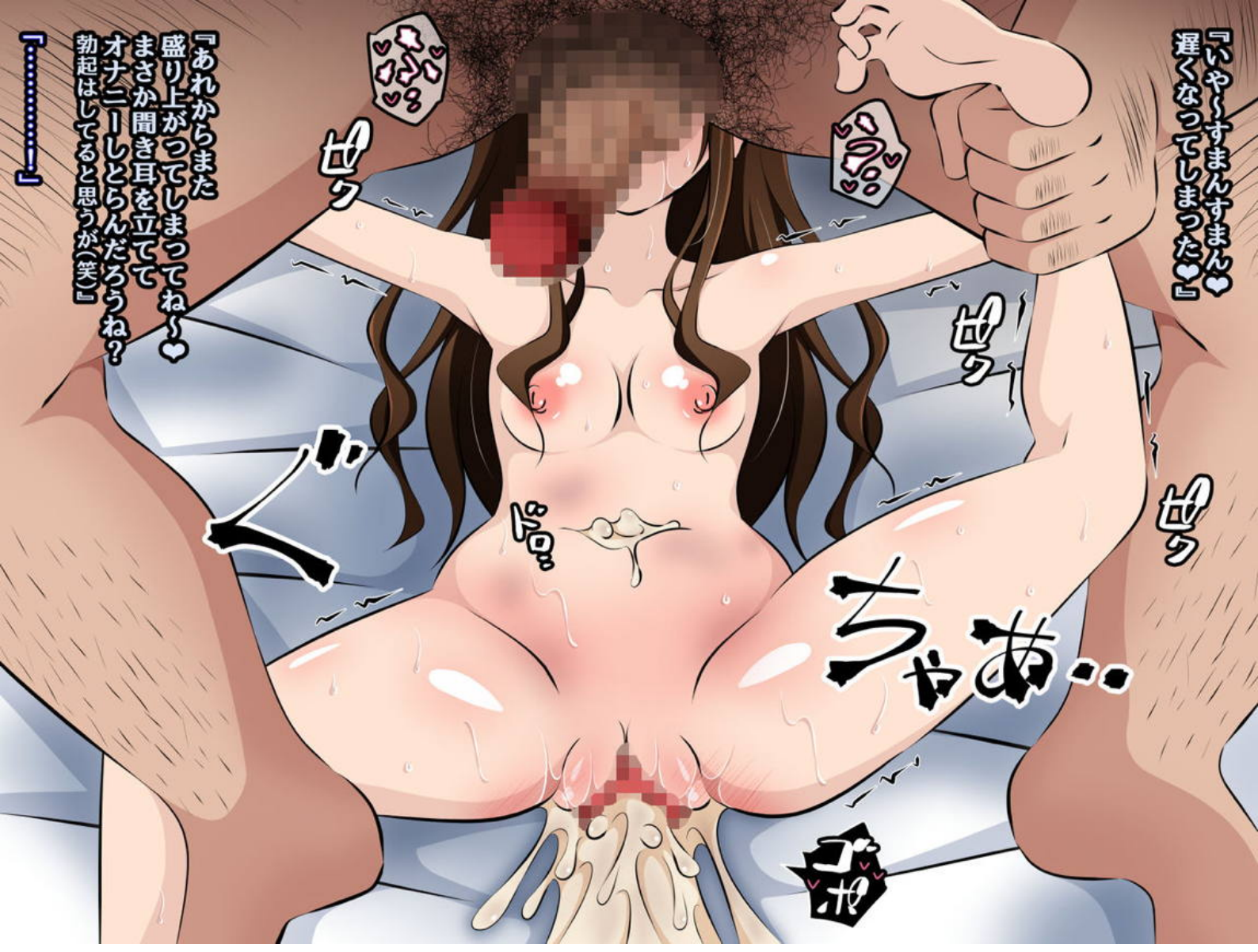
「！」

それは動画ではなく
ビデオ通話だった……

「いや、すまんすまん♡
遅くなつてしまった♡」

「あれからまた
盛り上がりましてね♡
まさか聞き耳を立てて
オナニーしとらんだらうね？
勃起はしてると思うが(笑)」

「.....」



「せっかくだから
ビデオ通話にしたよ♡
ほら、見てくれ♡
今日もキミの妹を
使い潰してやったぞ♡」

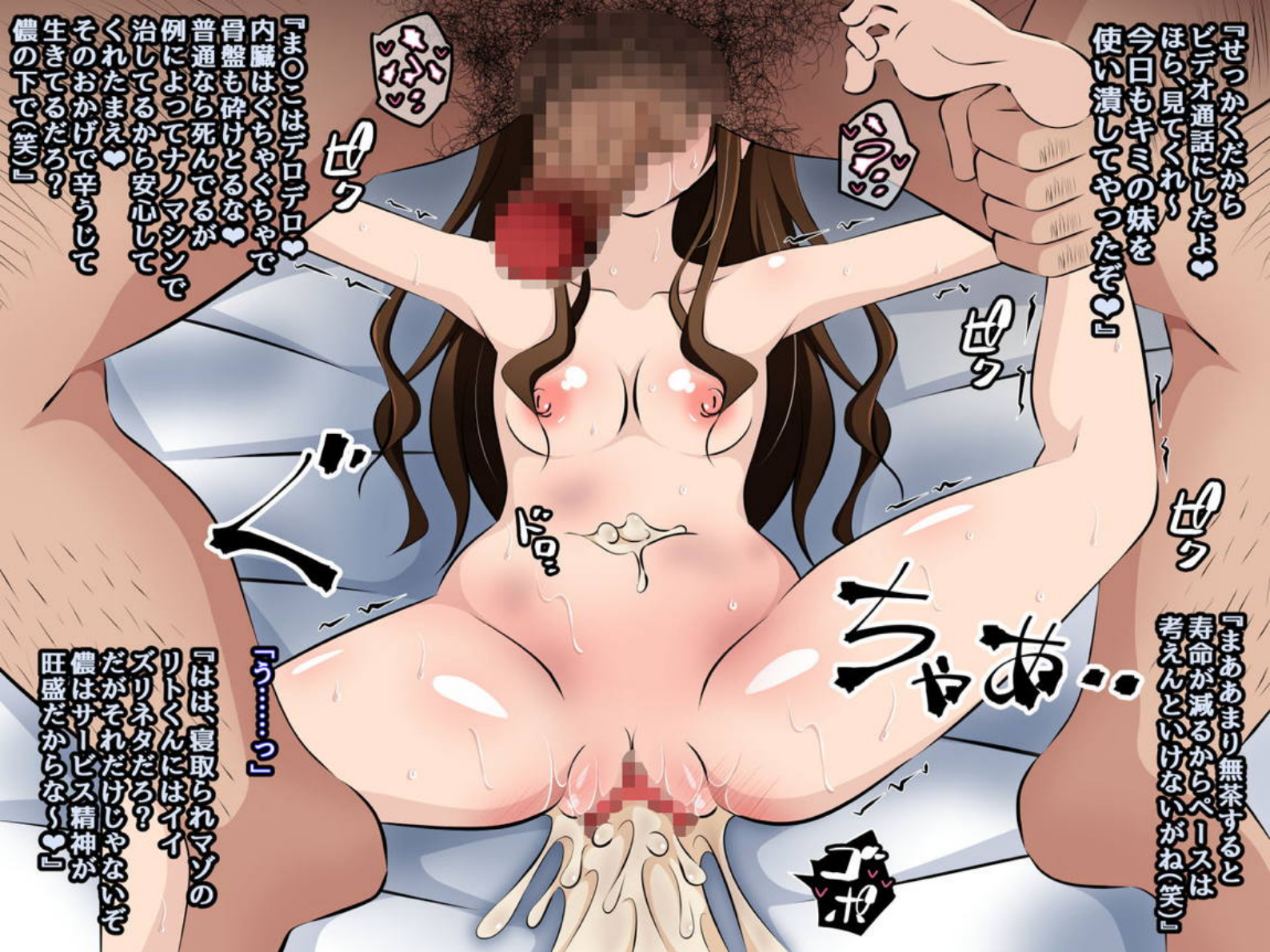
「まああまり無茶すると
寿命が減るからペースは
考えんといけないがね(笑)」

「うああ..」

「ま〇いはアロアロ♡
内臓はぐちゃぐちゃで
骨盤も砕けたるな♡
普通なら死んでるが
例によってナノマシンで
治してるから安心して
くれたまえ♡
そのおかげで辛うじて
生きてるだろ？」

「ん.....」

「はは、寝取られマゾの
リトくんにはイイ
ズリネタだろ？
だがそれだけじゃないぞ
豊はサービス精神が
旺盛だからな♡」





『ほれ、これだ』

『え？それ……？』

『歯を抜いたときと違い、キミは取り返しのつかないハードプレイが好きみたいだからね』

『キミの妹に……ひひひ』
『生消えなら落書きを』

『してやろう』

『ちゅ……』

ちゅ..

セッ

セッ

セッ

セッ

セッ

ゴボ

『ほい、完成〜っ♡♡』

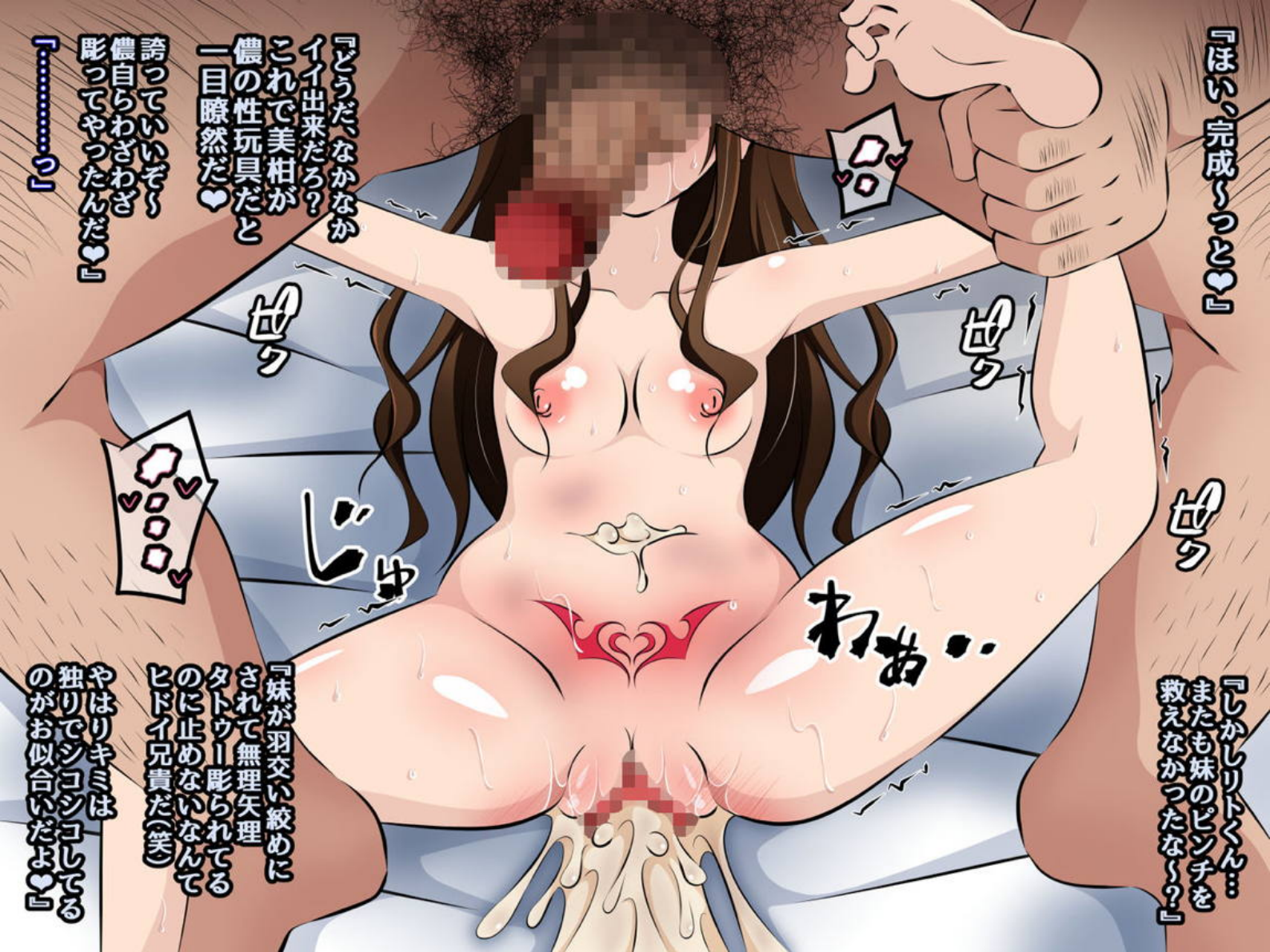
『しかしリトくん…
またも妹のピンチを
救えなかつたな〜？』

おお..

『どうだ、なかなか
イイ出来だろ？
これで美柑が
僕の性玩具だと
一目瞭然だ♡』

『……………』
『……………』
『……………』

『妹が羽交い絞めに
されて無理矢理
タトゥー彫られてる
のに止めないなんて
ヒドイ兄貴だ(笑)』
やはりキミは
独りでシコシコしてる
のがお似合いだよ♡』



「ついでだから
記念写真も残しておくか♥
リトくん、
画面を保存しておいてくれ、
それくらい左手だけでも
できるだろ？」
右手は今忙しいだろうからな(笑)」

「う……う……う……」

あえええ

「ははは、こうすると
釣った魚みたいだな(笑)」

体長149センチの
メスガキです♥
まだまだ
小ぶりなJ○だけど
逃がしませ〜ん」

カ
ラ

ゴ
ホ

ゴ
ホ

「せっかく釣り上げた
カワイイ獲物なので
きちんと命まるごと
いただきます♥」



「ぶほほほつ♡
さてさて、リトくんは
上質なオナネタも
提供できたところで…
ダメ押しにもう一つ♡
今から美柑を
妊娠させてやろう♡」

『え…っ!』

「今さらそう驚く
こともあるまい?
ナノマシンを使えば
容易いことだ♡
既に美柑は儂の前では
常時排卵するように
改造済だからね…
後は受精と着床を
促すだけだ♡」

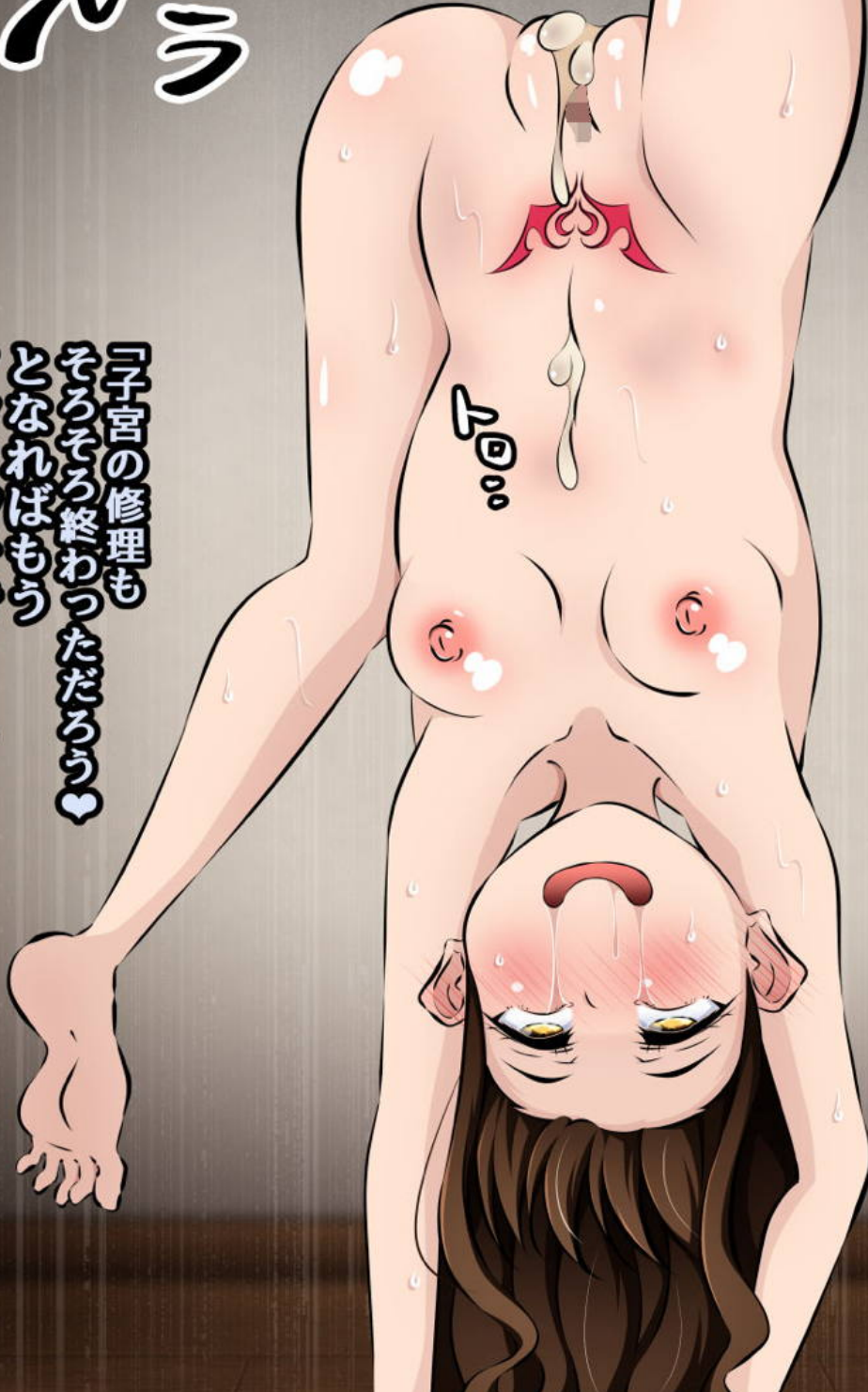
オラ

ゴホ

しん

あえええ

「子宮の修理も
そろそろ終わってただろう♡
となればもう
ワンタッチで—」





「ほれっ♡」
「あー」

セッ

セッ

セッ

セッ

セッ



セッ

セッ

「ほい、これで受精完了♡
美柑の妊娠が決定したわけだ♡
ひひひ、簡単だろ?」

「……………」

「もちろん取り消しは
きかんよ?」
まあどの道妊娠はさせる
予定だったから一緒だ♡
儂はハントしたメスガキには
必ずガキを産ませるように
しているからね♡」

「しばらく子宮ぶち抜き
レイプができなくなる
のが難点だが…
そこは我慢だな♡
新しい命のために(笑)」



「あく、わかってると思うが
出産は命がけだぞ?」

「僕のポリシーとして
出産させるときには
ナノマシンの治療は
しないことにしてるんだ
女なら出産くらい
自力でこなせない
いけないからね♡」

おはよう♡♡♡

せーっ

せーっ

せーっ

おはよう♡♡♡

せーっ

「まあ安心しろ♡
これまでの経験から言つて…
美柑の体格ならまあイケるだろ、
多分な(笑)」



『想像できるか？
この細っこい身体から
ガキがひり出てくるんだ
あれは見ものだぞ〜(笑)』



「ふうーっ♡
ふうーっ♡」

『ぶふふ、気に入って
もらえたようで
何よりだ(笑)』

♡♡♡
シッコ
♡♡♡

『それじゃあ體は
引き続き美柑で
楽しませてもらうから
キミはオナニーに
励んでくれ(笑)』



クチュ
クチュ

『今日はこの映像を使って
何回でもしていいからな
どうせ録画してたんだろ』

「♡♡♡♡♡」



ズツ...

『じゃあな〜(笑)』



世ユル

「……」

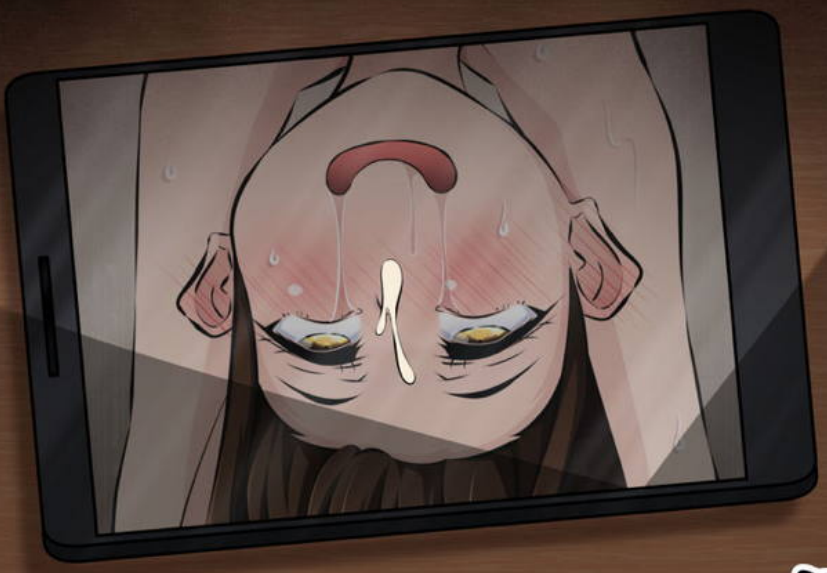


「……」



「……」
「……」
「……」

「ああ……」
「は……ああ……」



「あ……」

「あ……」



「はあ……っ
は……ああ……っ♡」



その日……俺は
美柑がタトゥーを彫られ、
妊娠させられる動画を見て
五回抜いてから
力尽きるように寝た……

ココロ
ココロ

単に許可されただけで
オナニーをしるとは
命令されていない……
にも関わらず……
美柑を助けられない
無力感を味わいながら……



俺が『ご主人様』に
逆らうことを諦めた……
このときが決定的な
瞬間だった……

「はあ……っ
は……ああ……っ♡」



その日……俺は
美柑がタトゥーを彫られ、
妊娠させられる動画を見て
五回抜いてから
力尽きるように寝た……

ゴクゴク

単に許可されただけで
オナニーをしろとは
命令されていない……
にも関わらず……
美柑を助けられない
無力感を味わいながら……



俺が『ご主人様』に
逆らうことを諦めた……
このときが決定的な
瞬間だった……

「はあ……っ
は……ああ……っ♡」



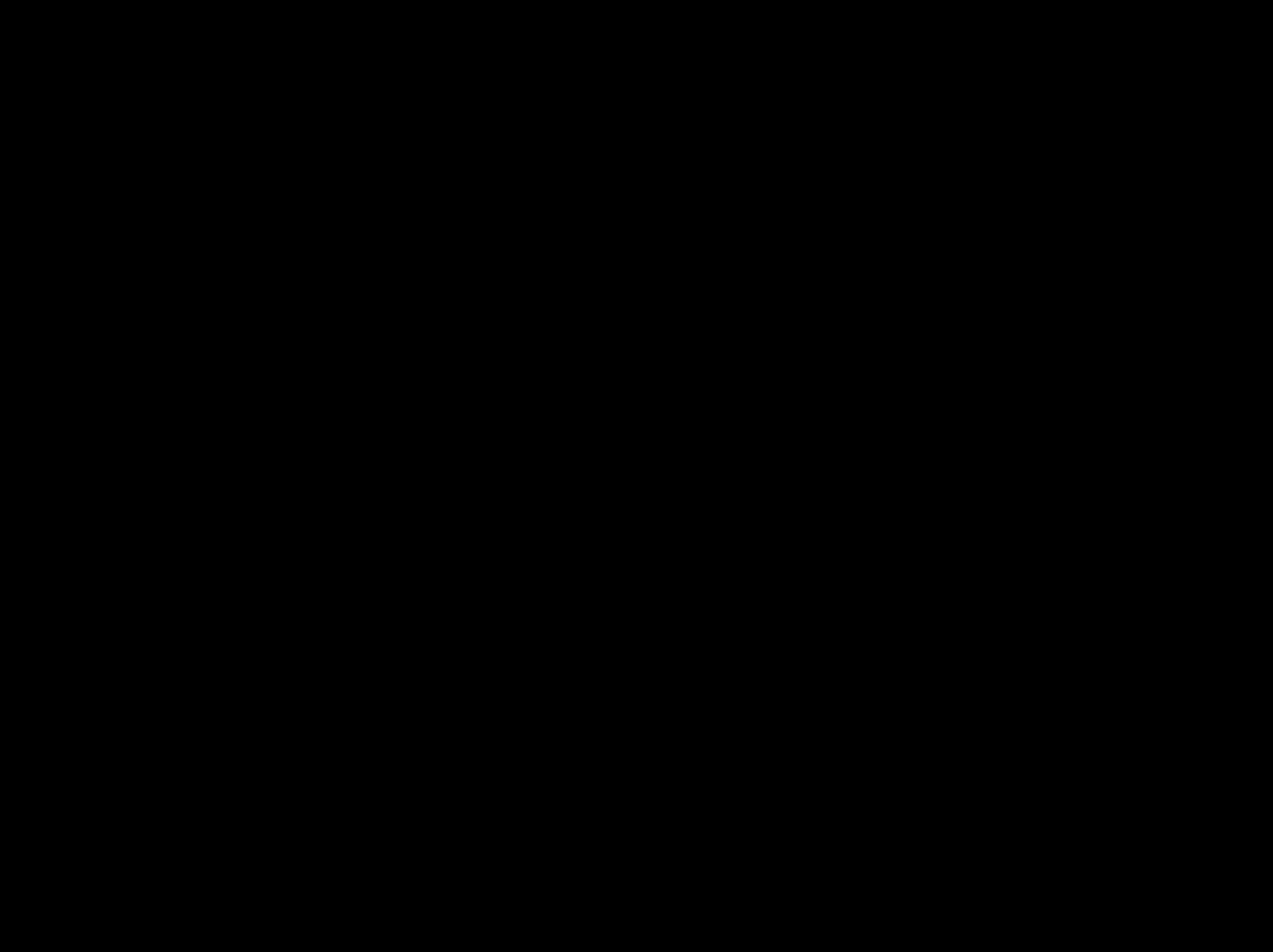
その日……俺は
美柑がタトゥーを彫られ、
妊娠させられる動画を見て
五回抜いてから
力尽きるように寝た……

クククク

単に許可されただけで
オナニーをしるとは
命令されていない……
にも関わらず……
美柑を助けられない
無力感を味わいながら……

俺が『ご主人様』に
逆らうことを諦めた……
このときが決定的な
瞬間だった……





Chapter.3 : 公開出産♥大人の歪んだ保健体育♥



十ヶ月後、学校――

ザッ

え？
あれって……？

うわ、
なに……!?

うそでしょ？
あ、あのお腹……!!

ザッ

ザッ

ザッ

ザッ

あれ結〇さん
だよね……？
最近休んでた……

ね、ねえこれ
先生に言った
ほうが……

え、え？なに？
どういうこと……??

「……♡」

ほっ♡
ニッ♡

ザッ

教室——

「はい、みんな
静かにして〜」

ころ

うわ…
すご…

ざっ

て

よかった〜
私じゃなくて…

ちやう

「今日は結〇さんが
久しぶりに登校して
きてくれました〜」

結〇さんがクラスを代表して
ご主人様の孕ませ奴隷に
していただいていたことは
みんな知ってるよね？」

ざっ

ぼ

ざっ

マジで妊娠
してるじゃん…

「今日はご主人様が
結〇さんを使って
大人の保健体育を
教えてくださいます
みんなしつかり
勉強するように〜」
ではご主人様
お願いします」

「ひひひ♡
ほれ美柑、みんなに
説明してあげなさい」

「はい、ご主人様♡」

でも結〇さん
なんか幸せそ〜

ちやう

「…みんな、ひさしぶり〜
ずいっと学校に来れなくて
ごめんなさい♡」

私が休んでた間
何してたかって言うこと…
見たらわかるよね？
毎日めちやくちやに
犯されてたの♡♡♡

ザッ

ぽ

ザッ

て♡

やべ…
俺勃って
きちやった…

ザッ

「遊びで孕まされた」を
大事に大事に育てて…
やうつと臨月になったから
みんなに見せびらかせに
来たんだ♡」

「どう？」

すっごくイヤらしい
身体になつたでしょ♡
大人はこーやって
J〇をアンバランスな
体型にしちやうのが
大好きなんだって♡

みんなの周りにいる
大人もできないだけで
みんなそうなんだよ♡」

なんか前より
エロくなつた
よな…

「よしよし、いいぞ♡
しかし、美柑…
少し説明が足りないな？
これじゃまるで儂が悪い
みたいじゃないか(笑)」

でも結〇さん
なんか幸せそ〜

「あ、そうですよね(笑)
みんな、誤解しないでね？
私は大丈夫だよ、
ご主人様のために
人権を完全放棄してる
から♡」

「そうだ、玩具をどう扱おうが
持ち主の勝手だからな♡
それに…責任を取るのは
儂の仕事じゃない」

ザッ

ぽ

ザッ

て♡

ザッ

やべ…
俺勃って
きちやった…

「はい、もちろんです♡
私がこうなった責任は…」

なんか前より
エロくなった
よな…

「よしよし、いいぞ♡
しかし、美柑…
少し説明が足りないな？
これじゃまるで儂が悪い
みたいじゃないか(笑)」

え？

「あ、そうですよね(笑)
みんな、誤解しないでね？
私は大丈夫だよ、
ご主人様のために
人権を完全放棄してる
から♡」

「そうだ、玩具をどう扱おうが
持ち主の勝手だからな♡
それに…責任を取るのは
儂の仕事じゃない」

ザッ

ぼ

ザッ

て♡

「はい、もちろんです♡
私がこうなった責任は…」

あ…あの
知ってる…

「ぜんぶ
そこに立ってる
私のお兄ちゃん、
リトにあります♡」

「……………」

「当たり前だよね〜リト? 妹が遊びで孕まされてんのに泣きながらシコってんだから...責任くらい取ってくれないと!」

「あ、ああ...」

えっ
ひどい

ザッ

て

「キミたちくらいの年頃がキチンと避妊をしないとどうなるか...ひひ!」

ちやう

「よし、責任の所在を明らかにしたところで特別授業を始めるか!」

テーマはずばり出産のリスクについてだ! これから美柑が皆を代表して出産するから!」

え?
マジで今から産むの?ここで?

ザッ

ぼ

妹がやられてたら普通助けるだろ...

「んふ...!」

「同級生——美柑が超ハイリスクな命がけの出産をするのを実際に見て、どれほどキケンかしっかり学ぶんだぞ!」

美柑がナノマシンで
強制的に妊娠させられて
から十ヶ月——
今日は美柑の出産予定日…

しかし『ご主人様』は
俺たちを病院ではなく
美柑の学校に連れてきた…

ちやう

ザッ

ぼ

ザッ

て

教師やクラスメイトは
当然のように洗脳済み。
どうやら美柑はここで…
同級生たちの前で
出産させられるらしい…

でも俺にはどうする
こともできない…
美柑の言う通り、
俺には…



※ご注意※
このあと歯なし描写があります。
(ファイルNo.[202],[302],[304])

**血は出ませんが
苦手な方はご注意ください。**

「じゃあまずは陣痛促進剤飲むね♡」

「大人になったら期日は絶対だから、出産なんて些細なことでも予定日から遅れちゃダメなんだって♡」

「当たり前だよね、出産なんて命がけで穴からガキひり出せばいいだけだもん♡それだけのことでわざわざ種を仕込んでいたご主人様を待たせられないよ♡」

ザッ

うわ、あんなの飲んで平気なの？

あーん♡♡♡

促進剤って？
むりやり産ませるってこと？

ザッ

えーそんなことしていいの？

ザッ

「よしよし、美柑はメスの立場をよく分かってるな♡みんなも見習うんだぞ」





「ほい飲んじやった♡
これで数十分後には
生きるか死ぬかの
ギャンブル出産決定
です♡」

「よかつたらみんなも
賭けてみてね♡
私が生きるか死ぬか♡」

「うむ、
それまで暇だな…(笑)
…よし、では
この空いた時間で
主人への奉仕
の仕方を教えてやろう♡
学校では教わらない
実践的な保健体育だ♡」

ザッ

ホントに
飲んじやった…

え、
美柑ちゃん
死んじやうの？

ザッ

てかお兄さんも
止めればいいのに…

ザッ

「そうだな、
まずは…」





ぢゅ

か

き

あ

「口を使った
奉仕だな♡」



んあ〜♡♡♡

ぬ♡

と♡

「おち○ぽ様」
歯が当たっちゃう
でしょ♡」

「ひひ♡」

でっか…っ

あんなの
入るの…??

ザッ

「女を支配してくれる
すっごいモノ♡
お口を使ったご奉仕では
コレをお口いっぱい
頬張ってえ♡
喉奥でシゴくんだよ♡」

べちゃあ♡

ギン

ぼろん♡

ザッ

ザッ

俺たちの腕
くらいあるじゃん
あれ…

「あ、ちなみに…
ほら、シト」っち来てー」

「あ、ああ…」

「見たことない」も
多いかな？
コレが大人の
勃起ち○ぽだよ♡」

「ごちがリトの
負け犬ち○ぽ
ご主人様とは
比べ物にならない
ほど粗末でしょ(笑)
小っちゃくてカワイイけど
男として終わってるって
いうから」

ち○ぽ(笑)

ゼン

べちゃあ

ザッ

「女の口はご主人様を
選ぶときは絶対
こんな短小ち○ぽを
選ばないように
気をつけてね♥
男の口はごうならない
ように頑張って」

さすがに
あれは
ないわー

「これじゃあ
寝取られても
仕方ないっていつか、
でかもう生きてる
価値ないよね(笑)」

ぼろん

ザッ
うわー
かわいそー

「もしこんな短小に
なっちゃったら、
そのときは存在が
迷惑なので
さっさと死ぬか
一生童貞でいて
ください(笑)」

ギギン

ザッ

ズ

「さて…それじゃあ
キミー！」

「え…私ですか…？」

「そりゃキミーだ♡
キミー、こっちに来て
農のケツ穴を
舐めなさい♡」

「K…U…」

ぐんぐん

え？
私たちが
何かする
の？

「K…U…K…U…
K…U…K…U…
K…U…K…U…」

「K…U…K…U…
K…U…K…U…」

「何を驚いとる
今日の保健体育は
実習だぞ？」

「アナル舐めは
奉仕の基本だ♡
ほれ、早くしなさい」

ぐんぐん

ぐんぐん

俺男で
よかったさ

くそ…
結○さん…
オレも大人
だったら…

「K…U…K…U…
K…U…K…U…
K…U…K…U…」

「K…U…」

「ほっ♡♡」
「うわぁ…♡♡」

「んん…これだこれ♡
アナルで感じるJのの
カワイイ唇の感触♡
高い体温が肛門に
伝わってくる♡」

「初々しくていいぞ♡
もちろんファースト
キスだろうね？」

うわぁ…
マジで
舐めてる…

「んん♡物も舐め♡
んん♡♡んん♡♡んん♡」

「んん♡♡んん♡♡
んん♡♡んん♡♡んん♡」

ちゅ♡
ちゅ♡

「よしよし、
最近のメスガキに
しては感心だ♡
キミのファーストキスは
父親よりも年上の
ケツ穴だぞ♡」
一生忘れるなよ♡」

ママ
かわいいそ

私じゃ
ありません
ように

「じゃあ次…その！
代わりなさい」

ほっ♡

ほっ♡

「んほっ♡♡」

ほっ♡♡♡♡♡

ズチュウ♡♡♡

うわっ
射精してる
すごい量…っ

ほっ♡

俺も大人に
なったら…

「やはりお前らは
どこを取っても
大人に使われる
ためにできて
いるなあ♡♡」

べろ♡
にゅる♡

「おっふう〜
〜たまるん♡
」Oサンドイッチで
漏らすような射精っ♡

ど♡

持ちやすい頭♡
熱いくらいの口内に
柔らかな舌…っ♡」

動画撮るときや
よかつたなく
誰か撮ってない？

ちよつと男子
サイテス

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

※ご注意※
このあと歯なし描写があります。
(ファイルNo.[202],[302],[304])

**血は出ませんが
苦手な方はご注意ください。**

「ん〜これだこれ♡
口腔内を楽しんだあとは
やはり喉ま〇ごだ♡」

うわ
喉があんなに
変形してる…

けほ

よく平気
だよな〜

がほっ!!

がほっ!!

びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

「口だけでは狭すぎて
半分も入ってなかった
ち〇ほも…ほれ
根元までこの通り♡」

けほ

私絶対
ムリ…

がほっ!!

「メスガキは
窒息させて
なんぼって
ことだな♡」

「おら死ねっ♡死ねっ♡
喉を使ってやってる
おち〇ぼ様に感謝
しながら窒息しろっ♡

「お前
メスガキの代わり
なんかいくらでも
いるんだっ♡」

「けほ」

「がほっ!!」

「けほ」

「最近のガキには
大人に対する感謝が
まったく足りんっ♡」

「もう何分も
息してない
よな…」

「がほっ!!」

「マシで
殺す気…?」

「がほ」

「がほ」

「がほっ!!」

「お前
メスガキは
命を性欲処理に
役立ててやってる
ことにしっかり
感謝してっ!!!」

「がほ」

「おち〇ぼに
残りの人生
全部
捧げろっ!!!」

「大人って
こわ…」

ふんふん
ふんふん
ふんふん

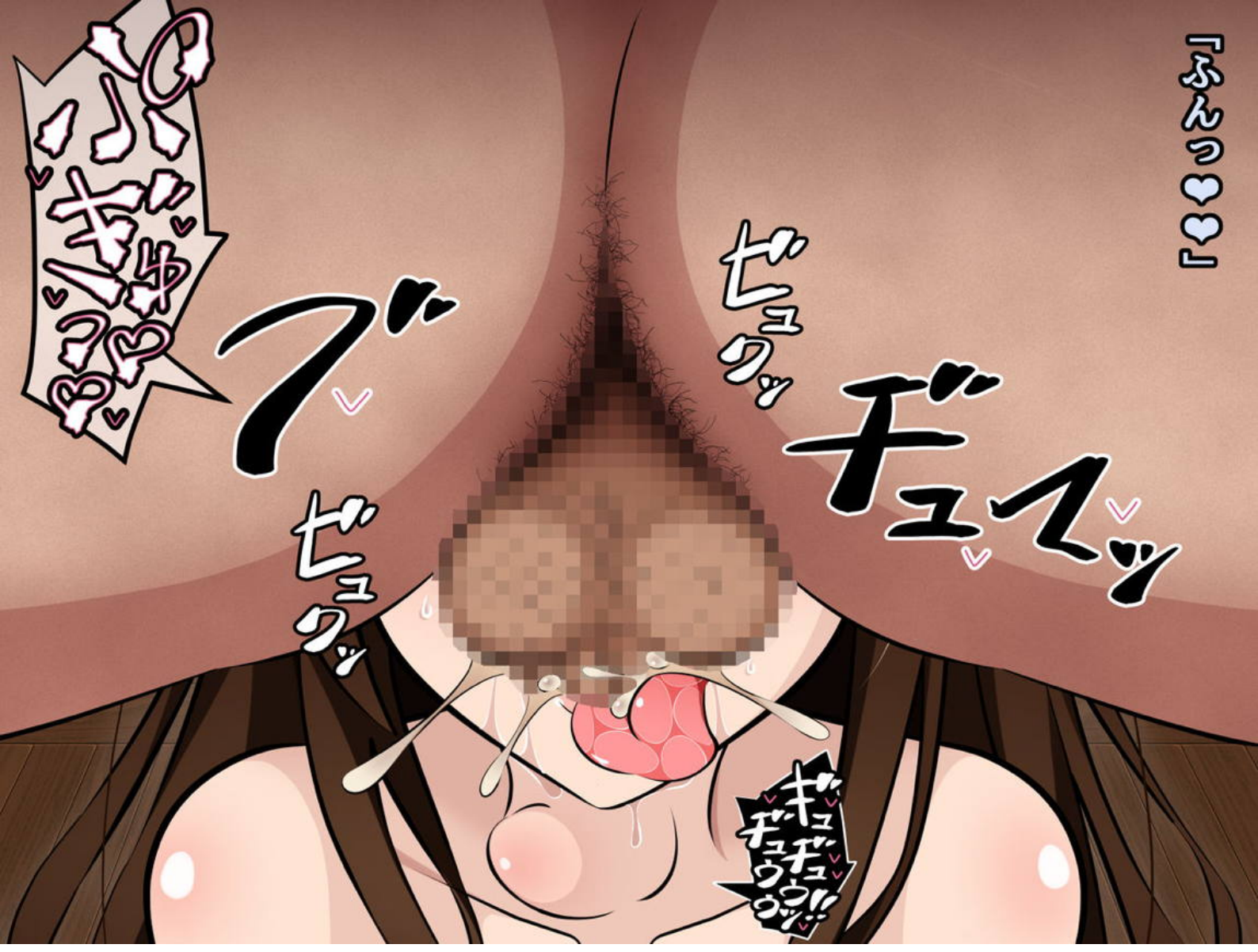
ズ

ジュウツ

ジュウツ

ジュウツ

ジュウツ



「ふう〜っ♡
ふう〜っ♡
あ〜たまらん♡
やはり美柑の喉は
ストレス発散に
ちょうどいいな♡」

やべ〜すげえ…
今度妹でやって
みようかな…

「女子諸君は尚更だ♡
ほれ、美柑を見たまえ、
これだけされても動じず
酸素の代わりに
精液を吸ってるだろ♡」



ゼジュクッ

ドムッ

ゼ



やっぱマジで
殺す気だった
んだ…

「男子諸君は
勉強になつたろ？
これが女の喉の
本来の使い方だ♡
殺すつもりでやる
のがコツだな(笑)」

え〜
やだ〜

「美柑はもう自分が
消耗品だと自覚
してるんだ♡
キミたちも
しっかり
見習うように♡」

ブ

ゼジュクッ

ゼク



「もっとも
美柑もザーゲ口癖
だけは治らんがな♡」

きたね〜(笑)

うわ、
吐いた！

ほっ

うわ、
吐いた！

ちよつと
やめなよ〜

「これはこれで
面白いが(笑)
本来は全て
胃に収めるのが
マナーだぞ♡」

げろろろ

「ほれ、その二人
ぼうっとしてるな。
今まで何を見ていた？」

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

べ
ち
ゃ
っ

「ご主人様が
ち○ぽを
使い終わったら
即掃除♡
それくらい
わかるだろ！」

「ぽっ…♡」

「ぽっ♡」



「ほっほっほっ♡」

「いいのお♡
食べごろ
小ぶりま○○が
三つ…♡」

「こうして並べると
美柑のま○○が
いかに使い込まれてるか
わかるなりトくん♡」

「この十ヶ月毎日
使ってたからなあ♡
」○○とは思えんま○○(だろ)(笑)「



はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

「おめで
どれから食って
やるか…♡」

ちの♡

ろん♡

し♡

ま♡

「食い慣れた
美柑のま○○か
それとも」



「ズッ」

「ズッ」

「ズッ」

ズッ

ズッ

「ズッ」

「おっ♡ほほほ♡
これはなかなか…っ♡」

「……………」
「悪くない穴だぞ！
初物だけあって
締りがイイっ♡♡」

「いいな♡
すっごい声(笑)」
「名前は何だった？
まあ何でもいいが(笑)
見た目通り活発な穴だなっ♡
生意気に抵抗感が強くて…っ!!!」

「しかし
無駄な抵抗だぞっ♡♡」

「そんな拙い抵抗で
大人ち○ぽに勝てるど
思っなっ♡♡
観念して内臓全部
ち○ぽ奉仕に使えっ♡」

「きちんと自分から
お迎え腰して
ち○ぽを根元まで
受け入れるんだ！
ほれどうしたっ
この程度でへバってちゃ
立派なオナホには
なれんぞっ♡♡」

ゴゴゴッ

ゴゴゴッ

ゴゴゴッ





「うむむっ♡
こっちの穴も
悪くないっ♡♡
このクラスは良質な穴が
多いな♡感心♡心♡」



「よかったね♡ママミ?
...あれ?聞こえてない?(笑)」

「ち○ぽを優しく
包み込むような
柔らかい肉だ...っ♡」

「まあそんなことは関係なく
ち○ぽで突き崩すがなっ♡♡」

ゼッ

ぐぢゃっ

キキ

ぐぢゃっ

ぐぢゃっ



「ひっひっひ♡
熟れる前に食うのが
お前お前ガキの食い方
だからなあ♡
ほれ舌を引つ込めんと
危ないぞ?
お前らにはまだ歯が
あるんだから(笑)」

「死ぬならち○ぽ
で死になさい♡」

♡♡♡♡♡

「そしてっ♡」

ん♡♡♡♡♡

「やはりフィニッシュは慣れ親しんだま〇こが一番だっ♡♡♡なあ美柑？」

「はっ♡♡♡ありがとっ♡♡♡ご主人様っ♡♡♡」

がり

がり

ゼッ

ハッ

フッ

ハッ

フッ

ゼッ

「ひひ、さすがに前回は慣れたものか♡しかしわかつてるな？」

「もちろんです♡私が平気でいられるのは全てご主人様の優しさ♡」

「ご主人様の本気ピストンの前では私もお腹のこもひとたまりもないとこを」

「加減していただいているとちゃんと理解してきますっ♡♡♡」

ゼッ

ゼッ

ブッ

ハッ

フッ

「そうだ！」

おっ

「お前らなど
本気を出せば簡単に
壊せるんだからな…っ♡」

がり

「命がまだあることに
きちんと感謝しなさい♡
三人ともだぞ(笑)」

「はいっ♡
ご主人様っ♡♡」

ぞう

ハッ
フッ

ハッ
フッ

ハッ
フッ

ブッ

がり

ぞう

ぞう

ぞう

ア

「よし、射精すぞお
美柑…っ♡♡」

「ポテ腹ま〇ンで
しっかり
受け止める…っ♡」

ぞう

は
び



「じゅじゅ♡♡♡ふぅ~~~~♡♡♡」

がり

「また気が向いたら使つてやるからきつちり排卵して待つていなさい♡」

いっしょ♡♡♡

がり

ズキ!

カン

びゅん♡♡♡

「あゝ射精る射精る♡結局いつも通り美柑の穴で射精してしまったなあゝ♡」

ゼッ

ズキ!

ト

びゅん♡♡♡

「しかし他の二人も悪くなかったぞ♡使い捨てにはもったいない♡」

ゼッ

「はぁ...♡♡♡はぁ...♡♡♡」



「う……っ♡」

「おっ
キミも射精したか
リトくん(笑)」

ちっさいちのほ
一生懸命擦って
情けなく(笑)

うわ
シコってたのかよ
大人しいと思った(笑)

妹があんな目に
あつてるのに…
マジ最低

「まあそう言うんじゃない。
リトくんだったって辛いんだ…
なにせ今日は久しぶりの
オナニー許可だからな(笑)
どれくらいだった?
三週間くらいか?」
「に…二ヶ月です…」

「はは、それはまた
随分溜め込んだな♡
つい忘れていたよ(笑)」

てか普段は
オナニーもさせて
もらえないんだ(笑)



「しかしそう呆けても
いられんぞ♡
美柑の陣痛も始まった
ようだし…」

いよいよ出産だ♡
オインスト

「んっ♡お…っ♡」

「……………!!」

「キミにも少しだけ
手伝ってもらおうぞ
リトくん♡」



「ほれ美柑っ♡
最後の仕上げだっ♡」

「んっ♡んっ♡んっ♡」

「儂のお迎え棒は
優しくないぞっ♡
大人ち○ぽで子宮口
ガン突きしてやるから
さっさと破水
しなさい♡」

ドチュッ

トチュッ

ドチュッ

手伝わって
アレかよ(笑)

てかアレ
タトウー?
今気づいたけど...

「んっ♡んっ♡んっ♡
んっ♡んっ♡んっ♡」

「リトくんはそのまま
美柑を支えててくれ♡
美柑の出産を特等席で
見られるんだ
キミも嬉しいだろ♡
ち○ぽおっ勃たせて...
ちよつとの間オナニーは
我慢してくれよ(笑)」

「はははっ.....」

また勃起
してるし...

セン

ゼッ

ゼッ

ドキッ

ガン

「ふう〜っ♡
こんなもんか♡
あんまりヤリ過ぎると
中身がダメになつて
しまうからな♡」

「お♡お…っ♡」

ズ♡

ゼン

ルン♡

ゼ♡
ツ♡
ツ♡

ゾル

ゾル

ゾル

「さて…そろそろだな♡
皆にも見えやすいよう
美柑には片足ピン立ち
させたこの姿勢のまま
産んでもらうぞ♡

出産にはまったく
適さない姿勢だが…
まあ大丈夫だろ(笑)」

「……………」

「お♡お♡お♡」

♡♡♡♡♡
♡おめでとう♡
♡♡♡♡♡

うわっ
びびった...
なにあれ?
羊水?

「よおろし、
破水したな♡
いよいよだぞ♡
覚悟はいいか?
二人とも」

んんん

ハニャアツ♡
ハニャアツ♡
ハニャアツ♡

セシャ

セシャ

セシャ

美柑ちゃんって
足長いよね

いやそんなこと
言ってる場合じゃ
ないだろ(笑)







「お」

あ

ゼクッ

「!!!」

あーん

ん

あ

びぢん

×××××

あ

ん

あ

「お」

「おっおっおっおっ！！
おっおっおっおっ！！
~~~~~！！！！！！」

すげえ音  
してるぞ…？

「ほほほほ〜♥  
ほれほれ頭張れ美柑！  
もう少しだぞ〜♥」

「あ…あぁ…っ」

ゼクッ

あーん  
んんん

あせあせ

びぢん

やば…これ  
ガチ絶叫じゃん  
てか断末魔…

×××××

美柑ちゃん  
頑張ってる

ゼクッ

「ほれどうした！  
しつかり踏ん張って  
ガキをひり出せっ♥

ほれ見ろリトくんっ  
腹がこんなに變形して！  
ひひひくたまらんっ♥  
遊びで仕込んでやった  
ガキの出産で苦しむ  
「◯ま◯こっ♥♥♥  
これが見たかつたんだ  
儂はっ♥♥♥」

「あ…うわあぁーっ！！」

出産ってマジで  
命がけなんだな〜

「ひびく……っ!!♡

でないいっ!!♡

おっおっおっ!!♡

ゼクッ

ぬっ!!♡

ヒッ

ヤバいよ  
マジで死んじゃう  
って

ねえヤバくない  
これ…?

をを

びぢっ♡

×××××

やっぱムリ  
だったんだよ  
J〇が出産  
なんて

ゼクッ

おん

「ぶほほっ♡  
思ったよりも難産  
だなあっ(笑)

リトくんっこれは  
もしかしたら  
ダメかもしれない  
なあっ(笑)

「美柑!!  
美柑っ!!」

「ほほっ♡  
おほっほほっ♡  
息がでкин(笑)っ♡  
ホントに君たち兄妹は  
儂を楽しませる天才  
だなっ♡♡

しかたない…  
ちよつとだけ  
手伝ってやるか♡」





「ぶほほほほっ♡  
見る見る！  
ついに産まれ  
たぞっ♡」

うわあ…ホントに  
産んじやったよ

「み、美柑……？  
おい、美柑……っ」

「さて…ひひ♡  
それじゃあ  
お待ちかねの  
母体のほうは  
というと……？」

「病院で産んでたら  
帝王切開必須の  
J〇ま〇こから  
強制自然分娩っ♡  
これがキミたち  
メスガキがガキを  
産むときの正しい  
手順だからなく  
参考にしなさい」

「あ…ああ…っ」

「産まれたガキは  
…おお、女か♡  
おっおっ元気に  
わめきおっ♡」

出産ってすげえ  
迫力だな…

美柑ちゃん  
大丈夫かな？

ゼクッ

「み」

どろおっ♡

おおきっ♡

ゼクッ

ほか

ゼクッ  
ゼクッ  
ゼクッ

ゼクッ

ほか



おんげっ♡♡♡♡♡

よかったよ

「なありトくん  
だから大丈夫だつて  
言っただろ？  
出産は命がけとか  
言いつつ女の身体は  
なんだかんた産める  
ようにできてるんだ♡」

兄貴過呼吸みたく  
なってるじゃん(笑)

「は…っ  
は…っ」

ほか

「お！

こっちも  
息はある  
みたいだな♡  
潰れたカエル  
みたいになつとる  
が辛うじて(笑)」

「は…あ…っ」  
ゼクッ

「なになに、  
ナノマシンからの  
情報によると…  
骨折が数か所に…  
内臓の損傷…  
まあこの程度なら  
美柑にとつては  
ほぼ無傷だな(笑)  
母子ともに健康つと♡」

なんか…  
幸せそう

どろおろ

ゼクッ  
「見ろこの顔♡  
これが死にかけながら  
股からガキひり出して  
連続アクメキメてた  
妹の顔だぞ♡」

おおきゅう  
おおきゅう





「よっと♡  
さて…このクラスに  
保健委員はいるかな？」

(胎盤↓)



え…  
は、はい…

「ああキミ。じやあこれを  
保健室に持って行って  
世話をしといてくれ。  
こっちも放っておくと  
死んでしまうからな(笑)」

なあに、適当でいいぞ。  
へその緒を切ったり  
身体を拭いたり…  
ググれば出てくるだろ」

わ…わかり  
ました…

できるかな…？

「すまんが頼むよ。  
本来の世話係は  
今だけはオナニーで  
忙しいからな♡  
そうだろ、リトくん」

まだシコラ  
されるのか  
よ(笑)  
カワイソッ



もしかして  
美柑ちゃん  
休みなし？

「まさか今日は  
産んだら終わると  
思ってたのか？  
甘い♡  
修理した玩具は  
すぐに使うに  
決まってるだろ♡」

「ふんっ!!♡ふんっ!!♡  
ふんっ!!♡ふんっ!!♡」



「.....」

ぐちゃっ  
ぐちゃっ  
ぐちゃっ

ぐちゃっ  
ぐちゃっ  
ぐちゃっ

ぐちゃっ  
ぐちゃっ  
ぐちゃっ

ぐちゃっ  
ぐちゃっ  
ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ  
ぐちゃっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ  
ぐちゃっ  
ぐちゃっ

ぐちゃっ

「うひひひひひっ♡♡♡  
これだこれっ♡♡♡」

うわ、  
身体あんなに  
変形して…

「出産を経てさらに  
よくなった♡♡♡  
経産婦J〇の  
柔らかい体内を  
無茶苦茶にかき回す  
この感触うっ♡♡♡」

ぐちゃっ♡♡♡

ぐちゃっ♡♡♡

おねだり♡♡♡

もうカタチ  
浮き上がって  
んじゃん

今まで手加減  
してたって  
ホントだった  
んだ

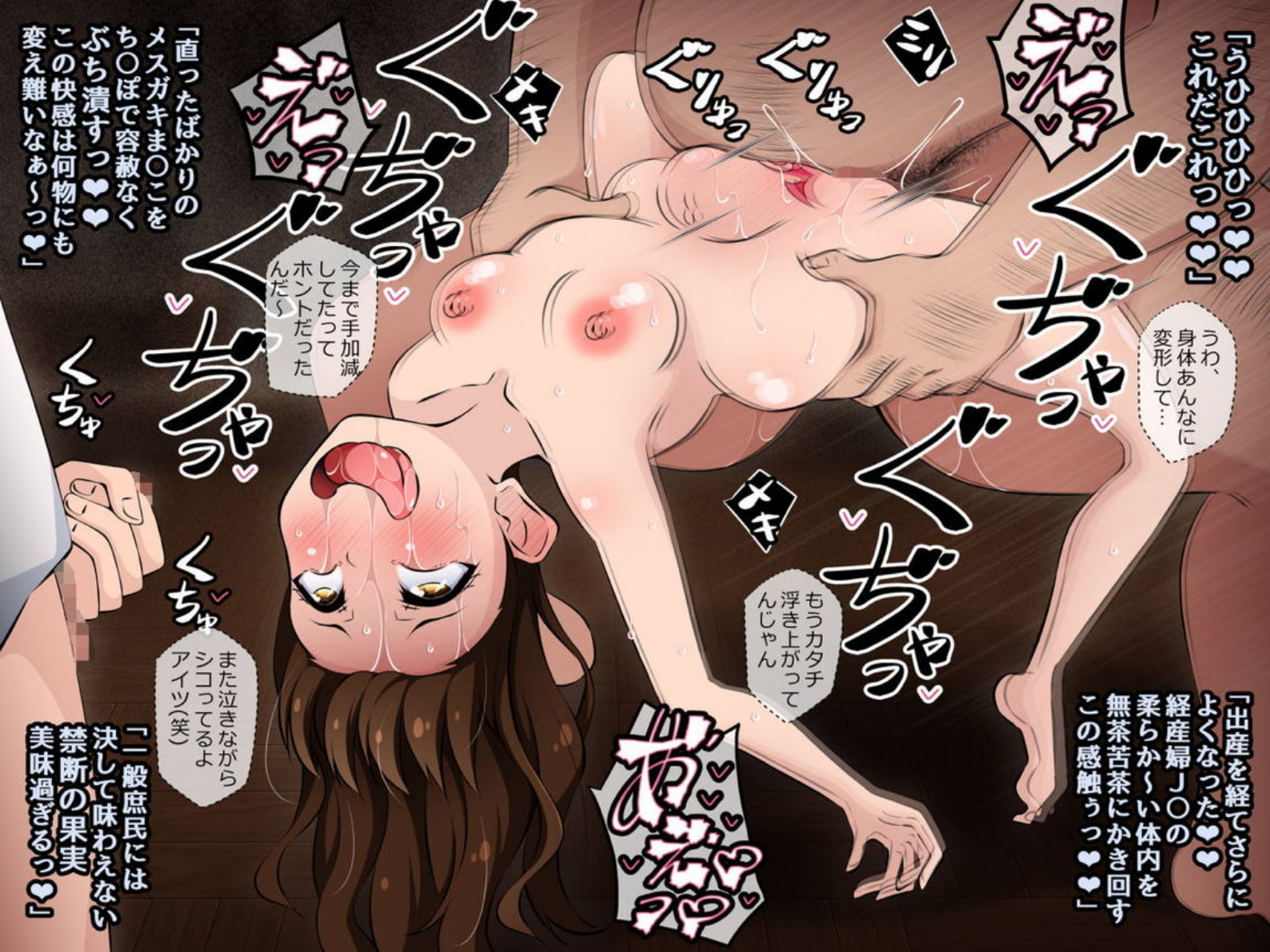
ぐちゃっ♡♡♡

また泣きながら  
シコってるよ  
アイツ(笑)

「直ったばかりの  
メスガキま〇こを  
ち〇ぽで容赦なく  
ぶち潰すっ♡♡♡  
この快感は何物にも  
変え難いなあっ♡♡♡」

くちゅ♡♡♡

「一般庶民には  
決して味わえない  
禁断の果実  
美味過ぎるっ♡♡♡」



「ほれリトくん  
シコってるから♡  
今日を逃すとまた  
次はいつになるか  
わからんぞ(笑)」

うわ、  
身体あんなに  
変形して…

「體も美柑の子宮を  
ぶち抜いて内臓を  
かき回してやるのは  
久しぶりだから  
なあ♡♡  
つい力が入って  
しまうよっ♡♡」

もうカタチ  
浮き上がって  
んじゃん

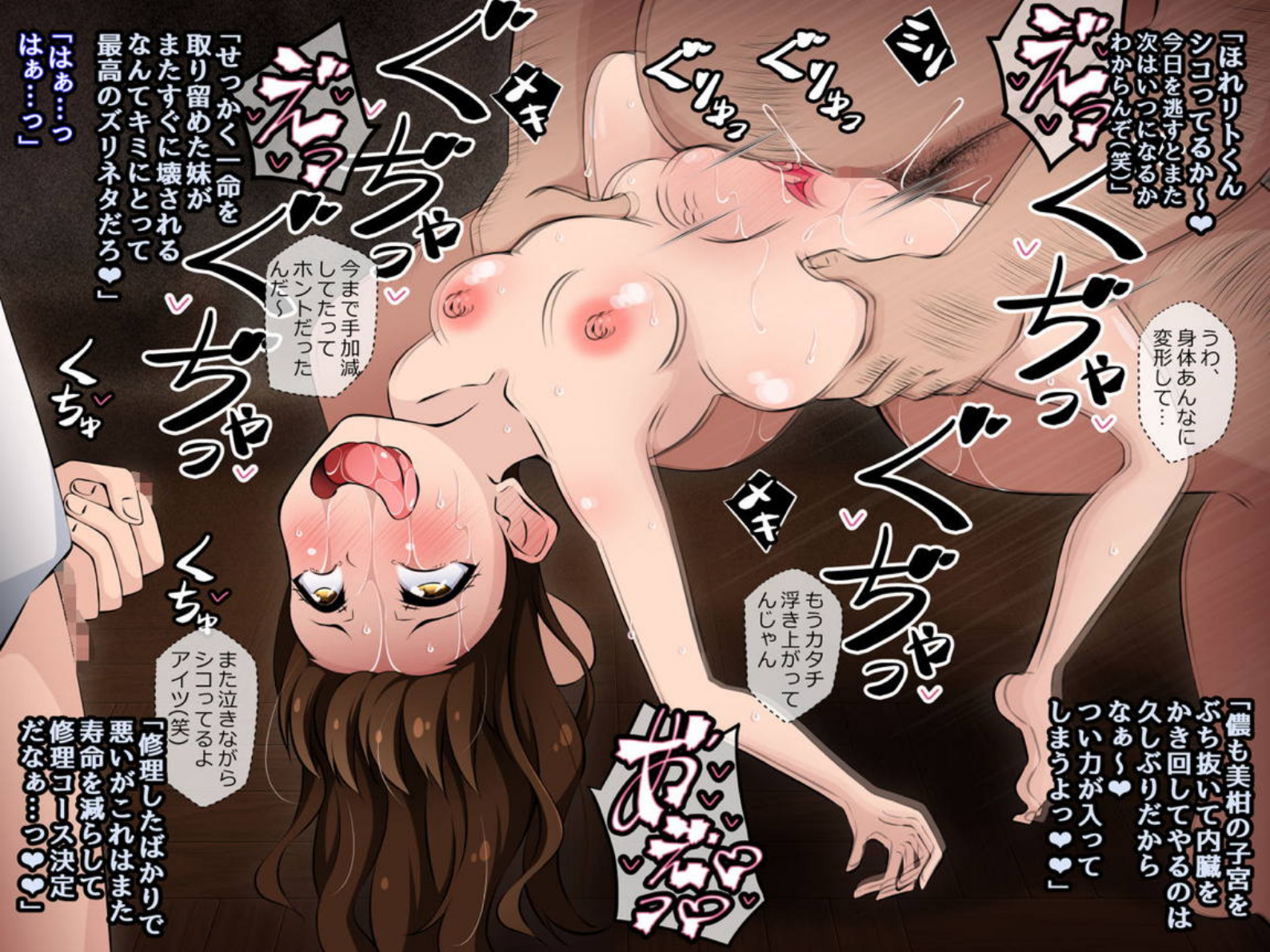
今まで手加減  
してたって  
ホントだった  
んだ

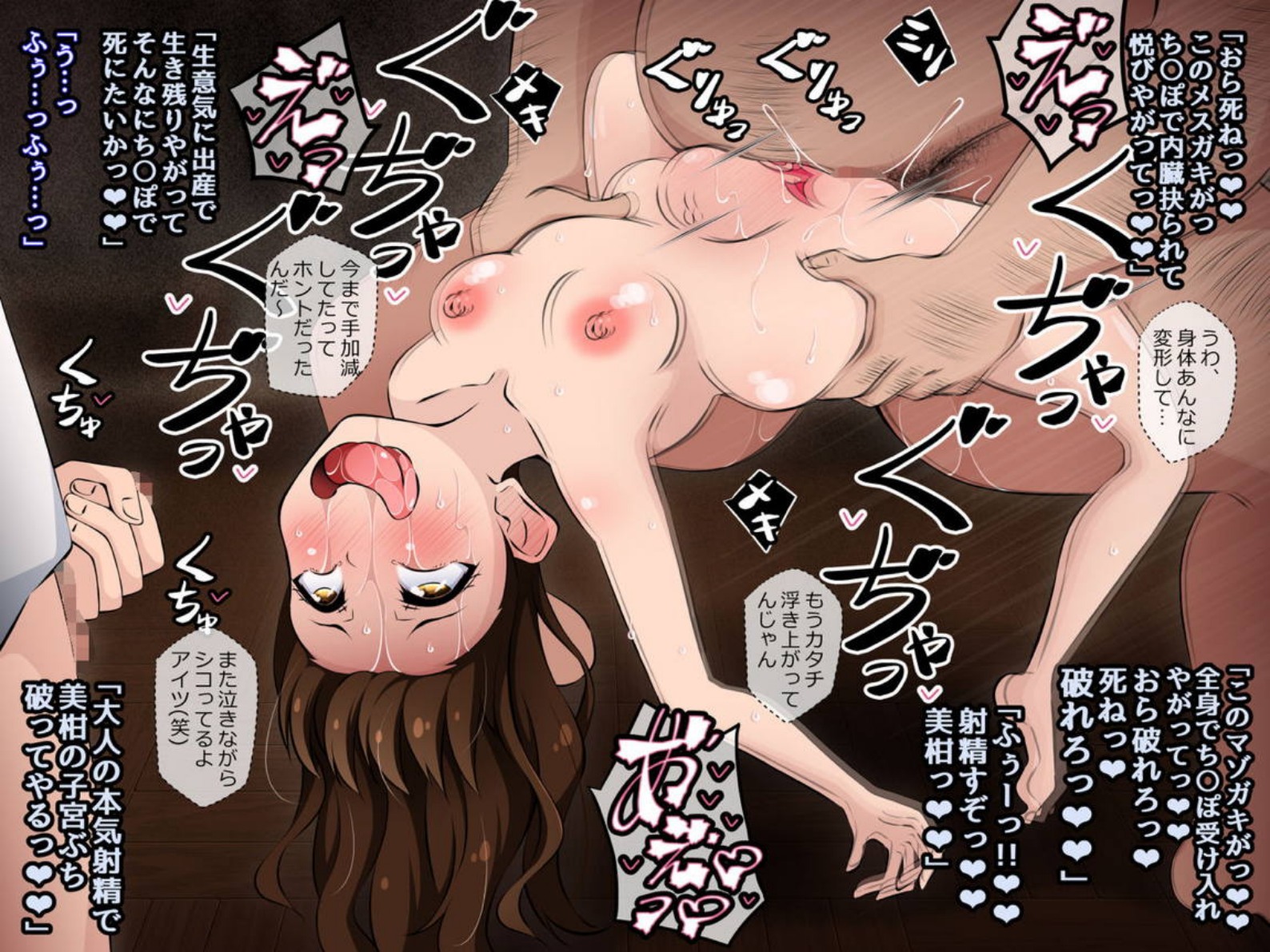
また泣きながら  
シコってるよ  
アイツ(笑)

「修理したばかりで  
悪いがこれはまた  
寿命を減らして  
修理コース決定  
だなあ…♡♡」

「せつかく一命を  
取り留めた妹が  
またすぐに壊される  
なんてキミにとって  
最高のズリネタだろ♡」

「はあ…っ  
はあ…っ」





「おら死ねっ♡♡  
このメスガキがつ  
ち○ぽで内臓抉られて  
悦びやがってっ♡♡」

うわ、  
身体あんなに  
変形して…

「このマゾガキがつ♡♡  
全身でち○ぽ受け入れ  
やがってっ♡♡  
おら破れろっ♡  
死ねっ♡  
破れろっ♡♡」

「ふうーっ!!♡♡  
射精すぞっ♡♡  
美柑っ♡♡」

もうカタチ  
浮き上がって  
んじゃん

今まで手加減  
してたって  
ホントだった  
んだ

また泣きながら  
シコってるよ  
アイツ(笑)

「生意気に出産で  
生き残りやがって  
そんなち○ぽで  
死にたいかっ♡♡」

「大人の本気射精で  
美柑の子宮ぶち  
破つてやるっ♡♡♡♡」

「う…っ  
ふう…っふう…っ」

くちゅ

くちゅ

ぐちゃっ♡♡  
ぐちゃっ♡♡  
ぐちゃっ♡♡

ぐちゃっ♡♡  
ぐちゃっ♡♡

ぐちゃっ♡♡  
ぐちゃっ♡♡

ぐちゃっ♡♡  
ぐちゃっ♡♡

ぐちゃっ♡♡  
ぐちゃっ♡♡

メキ

メキ

ぐちゃっ♡♡  
ぐちゃっ♡♡



「んん...ん」

ガッ



セッ  
セッ  
セッ

「んん...んん」

ガッ



「ふう〜っ♡  
ふう〜っ♡  
やってやったあ〜  
〜っ♡♡♡」

うわあ  
スゴイ量！  
今日4回目  
でしょ？

「どれだけ年若いても  
これだけは  
やめられん♡  
ひひひっ♡  
ほれ見ろリトくんっ♡  
また美柑をち〇ぽで  
駆除してやったぞ♡」

ガッ  
ギョル

てか  
おへそから  
噴き出して…

え…  
それって…？

ガッ

「命がけの出産終えた  
J〇をまたち〇ぽで  
ぶち壊してやったっ♡

あ、兄貴も  
射精してる(笑)

ホントだ  
気づかな  
かった(笑)

「キミもイイ  
オナニーが  
できたかね(笑)」

ひ…ひひい〜  
気持ちい〜っ♡♡  
圧倒的優位の立場から  
抵抗できないメスガキの  
命摘み取るの最高っ♡

セムル

「ふ…ふ…ふ…」



「……ん？  
ほれリトくん、  
何か體に言うことが  
あるんじゃないか？」

美柑ちゃん  
せつかく直して  
もらったのに  
また…

「よし、よく言えた♡  
それじゃあ特別に  
美柑は再修理して  
やろう♡」

「あ…  
ありがとう  
します…」

大人の性玩具  
つてタイヘン  
なんだな

セムル  
セムル

ガッ  
ガッ  
ガッ

「ひひ♡  
そうやってこれからも  
従順に體に仕えるん  
だぞ？」

「あ、美柑と一緒に  
長生きしたかったらな」

「はいはい……」

わ…私、結○リトは  
ご主人様のおかげで  
とても気持ちのいい  
負け犬オナニーが  
できました…  
み…美柑の命を  
消費してくださり…  
あ…ありがとう  
ございました…」

またそんな  
こと言って…  
最悪…

「まあ君には  
それしか選択肢が  
ないんだが(笑)  
これからもよろしく  
頼むよ、リトくん♡」

「……」



「……ん？  
ほれリトくん、  
何か體に言うことが  
あるんじゃないか？」

美柑ちゃん  
せつかく直して  
もらったのに  
また……

「よし、よく言えた♡  
それじゃあ特別に  
美柑は再修理して  
やろう♡」

「あ……  
ありがとうございます  
……」

大人の性玩具  
つてタイヘン  
なんだな

セムル  
セムル

ガク  
ガク  
セムル

「ひひ♡  
そうやってこれからも  
従順に體に仕えるん  
だぞ？」

「少しも美柑と一緒に  
長生きしたかったらな」

「はいはい……」

わ……私、結○リトは  
ご主人様のおかげで  
とても気持ちのいい  
負け犬オナニーが  
できました……

またそんな  
こと言って……  
最悪……

み……美柑の命を  
消費してくださり……  
あ……ありがとうございます……  
「……」

セムル

「まあ君には  
それしか選択肢が  
ないんだが(笑)  
これからもよろしく  
頼むよ、リトくん♡」

「……」

「……ん？  
ほれリトくん、  
何か體に言うことが  
あるんじゃないか？」

美柑ちゃん  
せつかく直して  
もらったのに  
また……

「よし、よく言えた♡  
それじゃあ特別に  
美柑は再修理して  
やろう♡」

「あ……  
ありがとうございます  
ございます……」

大人の性玩具  
つてタイヘン  
なんだな

「ひひ♡、  
そうやってこれからも  
従順に體に仕えるん  
だぞ？  
少しでも美柑と一緒に  
長生きしたかったらな」

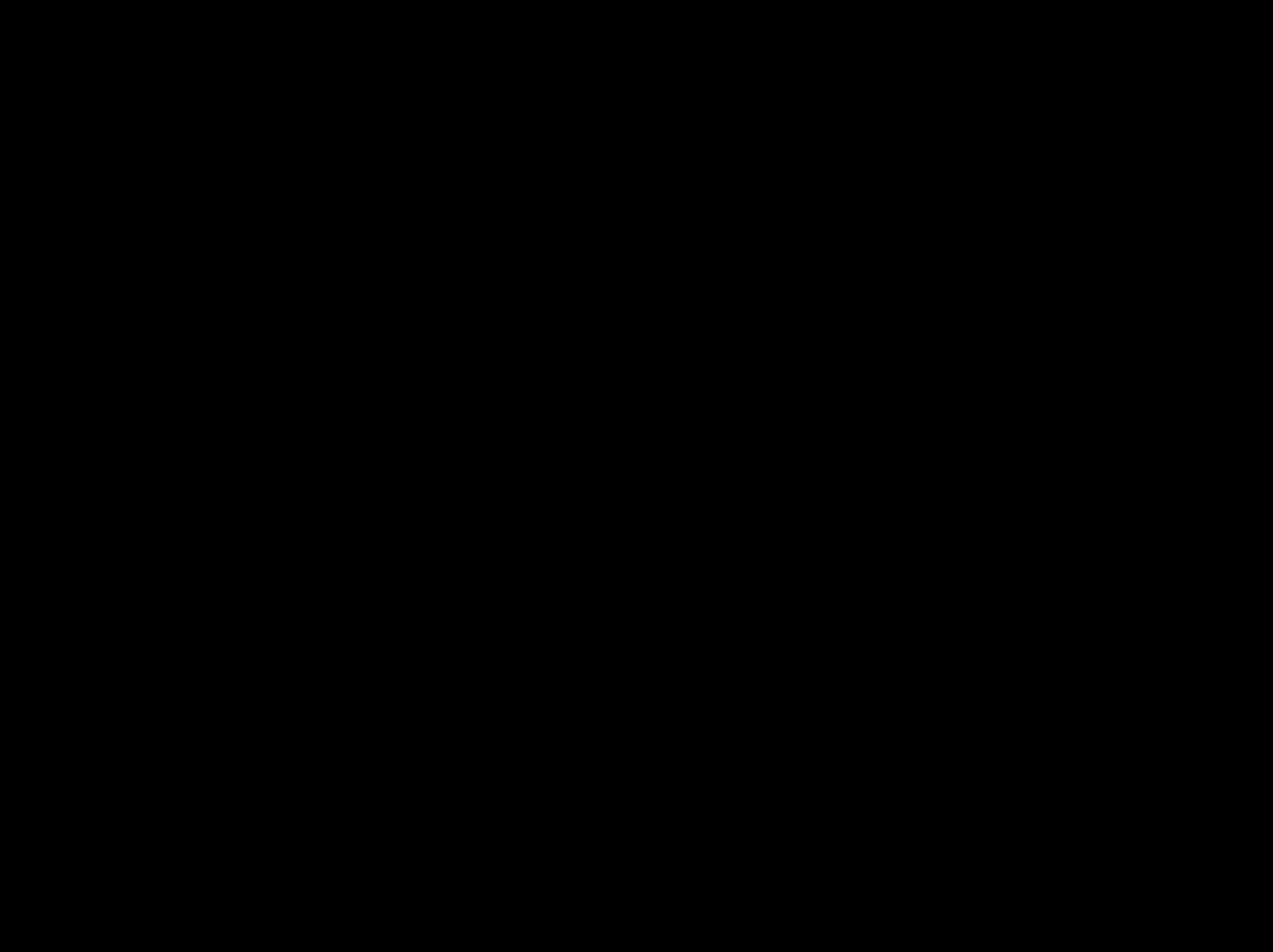
「は、はい……  
わ……私、結○リトは  
ご主人様のおかげで  
とても気持ちのいい  
負け犬オナニーが  
できました……  
み……美柑の命を  
消費してくださり……  
あ……ありがとうございます……  
ございました……」

またそんな  
こと言って……  
最悪……

「まあ君には  
それしか選択肢が  
ないんだが(笑)  
これからもよろしく  
頼むよ、リトくん♡」

せむ

「……」



「おっと、忘れていた！  
この状況で修理すれば  
当然美柑は受精するが  
構わないね？」

「え……っ」

「ひひ♡」

これでまた美柑は  
命がけの出産遊び  
決定というわけだ♡  
まあ遅かれ早かれ  
覚悟はしてただろ(笑)「



「しかし今度は  
十ヶ月も待つのは  
面倒だから……  
その間子宮ぶち抜き  
もできないし」

「ナノマシンで成長を  
早めてみるか♡」

「！」

「これで出産遊びの  
ペースも上がって  
一石二鳥♡  
だろ、リトくん？」

「もちろん美柑の  
身体に負担は  
かかるが……  
まあ平気だろ(笑)  
どうせ消耗品だ♡」

「ひひ♡  
まあとりあえず  
成長速度三倍くらい  
から……♡  
また三ヶ月後が  
楽しみだなあ♡  
リトくん♡」

「……………」

Epilogue : 人身売買オークション♥

五年後

某所某ホテル：  
秘密のオークション会場――

「それ以来まで  
大盛況を賜っております  
第36回メスガキオークション――  
次がいよいよ最後の出品です――」

「ヤッパ」

「ヤッパ」

「出品者は主催者の一人であり  
第1回から参加されている  
最古参メンバーの〇〇さん――」

「ヤッパ」

「メスガキ回  
出品物の品物は――」





「美柑ちゃんを知らない方は「JJ」はいいじゃないっしょ!」

「この五年、裏サイトで爆発的な人気を誇る美柑ちゃんは彩南町で捕獲されナリマシンによる洗脳・改造によって大人のために人生を捧げました」



「お母さんのOKOKU2146New... 身体への負担を考慮しない強引な改造を見境なく施し、出産回数はなんと18回!」

「おーおー」

「今ならおっかあ寝取られマッになったお兄ちゃんのリトくんもセットです(笑)」

「またメスガキ体型で主人を楽しませるため、JJのまま成長を止めておることです。そんな誰もが羨む美少女玩具がこの度ついに出品!」

「おーおー」

「おーおー」

「おーおー」









「いや、素晴らしい♡  
いつもながら完璧な  
洗脳処理だ！」

「ええ、実に！」

「ナクマシンの洗脳装置は  
私たちが小金持ちには  
手が出ませんからなく  
羨ましい限りですよ」

「それだけじゃありませんよ？  
あの弛んで歪んだ腹♡  
何度も出産させないと  
ああはならない……♡」

「五年でJ〇をここまで  
使い潰すとは  
さすが〇〇さんだ♡」

「ほか♡  
「ひっひひ♡  
気に入ってもらえたかな」

「シャッパッ♡」

「ほか♡」

「おハハ♡」

「よかつたなあ、お前たち  
新しいご主人様が  
見つかりそうぞ♡」

「はひ……」

「はあい♡  
ご主人様♡」

「お兄ちゃんのリトくんも  
イイ味だしますよ♡  
オプンエとしても悪くないし、  
童貞のまま去勢するのも  
面白そうだ(笑)」

「よおし、では  
次のデモに  
移ろうか♡」

「それじゃあ美柑、みなさんに」紹介しなさん」

「はい♡ みなさんこの度は美柑のオークションにご参加いただきありがとうございます♡」

「今から美柑の正しい使い方を紹介します♡」

「お、始めましたよ」

「相変わらずの巨根ですな」

「……というより、以前より」

「更に巨大になっているような……(笑)」



「これから私はあ〜♡  
この規格外ち○ぽに全体重をかけて〜♡  
串刺しになつて死にまあす♡」

私はどんなに中身が  
ぐちゃぐちゃになつても  
寿命を消費して  
ナノマシンで治りますのでえ〜♡♡」

ゴク

「皆さま安心して  
美柑が壊れる様を  
お楽しみくださあ♡♡」

「ははあ、なるほど…  
これが正しい使い方という  
わけですか♡」

ポム

ポム

「愉しみですなえ♡  
美柑ちゃんが壊れるのを  
生で見れるとは♡」

「ちなみにあのち○ぽ  
ナノマシン技術を応用して  
より巨大化させたりしい  
ですよ(笑)」  
「はは、メスガキ処刑用の  
ち○ぽというわけですか(笑)」



「わわっ♡♡  
よっぴんさっす美柑♡」

「あゝっ♡♡  
そっぴんさっす」

「あ、ソドもソドで  
見ててねっ♡(笑)」

「.....」

「おっのっ...っ♡」



ぐらぐら

あああああ

あっ!

ぬぬぬぬ

びびびび

×××

ハッ

びびびび

びびびび



「ほれ動けっ♡動けっ♡  
死んどうの場合じやないぞっ♡  
お前の命より儂のち○ほ！  
いつも言っどるだろっ♡」

「さあ…(笑)  
見たところ肺のあたり  
までは届いてそうですが」  
「美柑ちゃんの残機  
1つ減といった  
ところですかな♡」

「うおお〜！  
まさか本当にアレを  
身体に取めるとは♡  
さすが美柑ちゃんだ♡」  
「しかしあれだけの変形…  
身体の中はどうなってるん  
でしようなあ♡」

「いやいや、  
1つどころじゃ  
ないでしょう♡  
動くたびに  
死んでますよ  
あれは(笑)」



「ひひ、この通り♡  
美柑は死に続けながらも  
主人のち○ぽを気持ちよく  
するように躡けてあるんだ♡  
何度意識が飛んでも  
身体が勝手に動くよう  
仕込んである♡」

「最近は出産で壊すのにも  
飽きてきてな♡  
こつこつと手軽に潰して  
遊んでるんだ♡  
どんなに追い詰めても  
リトくんの反応も  
鈍ってきたしな(笑)」



「出産と言えはやはり  
最初のは特によかつた  
ですねえ♡」  
「ああ、あの学校で  
産ませたやつですね？  
あのときはリトくんの  
反応も最高だった♡」

「おらへパるなよ  
美柑♡♡♡  
射精すぞ♡♡♡  
最後のご主人様精子  
きちんと内臓で  
受け止めるっ♡」

「.....」



『おめめ』

『ほわっ♡♡』

ブチ

ズル

ズル

ズル

「おら死ねっ♡♡♡  
死ねこのメスガキがっ♡  
何度壊してやつても  
しぶとく生き延び  
やがってっ♡♡♡  
死んで大人を  
楽しませろっ♡♡♡」

「ほほっ♡  
相変わらず美柑ちゃん  
へそ噴射は芸術ですなっ♡  
「何度も壊して遊べるのが  
○○さんの品物の  
最大の魅力ですよねえ」



「いよいよ本気で  
欲しくなってきましたよ。  
しかしあとどれくらい  
持つのか…」  
「このオナホがっ♡  
お前に内蔵なんか  
いらないだろっ♡」

「身体治してる  
暇があったら体内  
精液でいっぱい  
しとけっ♡♡」  
「たしかに…  
あの調子じゃもう  
あんまり寿命残って  
なさそうですね(笑)」

「ふう〜……♡♡♡  
……とまあ、  
こんな感じで三日三回  
串刺しにして遊んだと  
耐用年数はあと2年と  
いつたところかな♡  
それなりに加減すれば  
5年はもつはずだ(笑)」

「ほう、2年ですか♡  
それだけあれば  
十分楽しめますね♡」  
「そうですね♡  
というよりも  
それくらいで壊しちゃら  
ますし……(笑)」  
「確かに(笑)」



「……はら、おん  
ありがとう  
ございました！  
今回も素晴らしい  
デモでした」

「それでは入札に  
移りたいと  
思いますー」

「お前は二千万から—  
ぶいん」



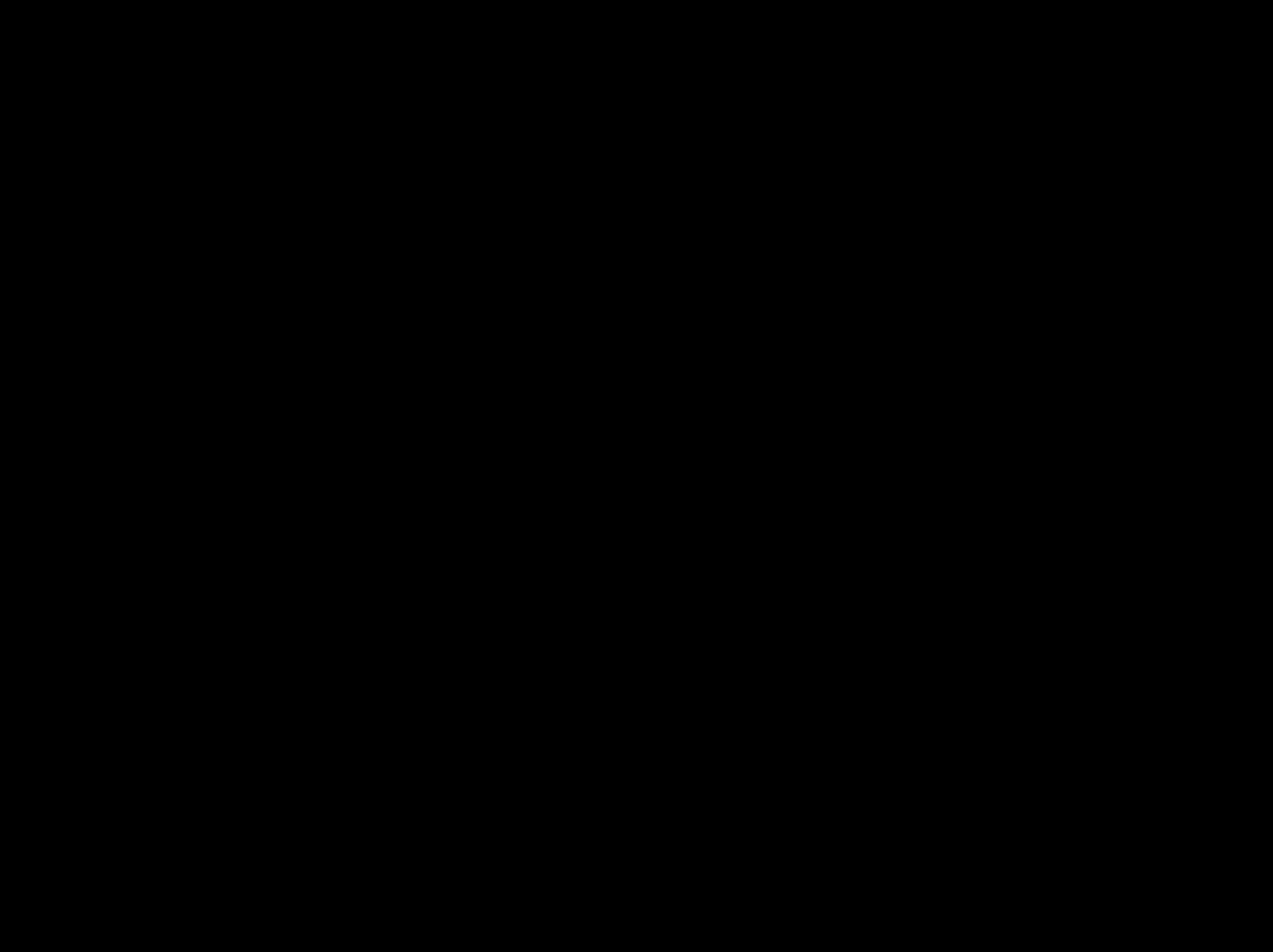


『まずは二千万から—  
どっぞ—』



『まずは二千万から—  
どっぞ—』





おしまい♥